

# がくがく 令和5年度 楽学プロジェクト ～職業のフロとともに夢を追いかける夏2023～ 講座記録集



主催：楽学プロジェクト委員会 仙台市教育委員会

日時：令和5年7月26日（水）、27日（木）

会場：宮城野区中央市民センター，宮城野区文化センター，宮城野図書館

## 《 目 次 》

はじめに	1
博物館の仕事	2
テレビ局の仕事	3
アナウンサーの仕事	4
栄養士の仕事	5
フラワーアレンジメント（花屋）の仕事	6
獣医師の仕事	7
水族館飼育員の仕事	8
看護師の仕事	9
新幹線乗務員（車掌・運転士）の仕事	10
洋菓子職人の仕事	11
パン屋の仕事	12
ウェディングプランナーの仕事	13
パイロットの仕事	14
キャビンアテンダント（CA）の仕事	15
自衛隊の仕事	16
ロケットエンジンに関わる研究開発の仕事	17
プロスポーツ選手の仕事	18
音響・照明の仕事	19
警察の仕事	20
スポーツトレーナーの仕事	21
医師の仕事	22
動物園飼育員の仕事	23
WEB（ウェブ）デザイナーの仕事	24
歯科医師の仕事	25
音楽演奏家の仕事	26
建築家の仕事	27
弁護士の仕事	28
消防士の仕事	29
ゲームクリエイターの仕事	30
学校の先生の仕事	31
農家の仕事	32
保育士の仕事	33
薬剤師の仕事	34
動画クリエイターの仕事	35
ファッションデザイナーの仕事	36
和菓子職人の仕事	37
仙台市ジュニアリーダー活動紹介	38
令和5年度 楽学プロジェクト委員名簿	39

## はじめに

楽学プロジェクトは、仙台自分づくり教育の一環として、市内小中学生を対象に、毎年夏休みに実施している事業です。様々な職業のプロから働くことの大切さや難しさ、仕事にかける思い等についての話を聞き、体験などを交えながら将来の職業について考える機会を提供しています。

今年度も、7月26日から27日にかけて、宮城野区中央市民センターや宮城野区文化センター、宮城野図書館において、第19回目の楽学プロジェクトを実施しました。昨年度1日半の開催だったところを2日とし、講座数や参加者数を拡大しての開催となりました。当日は、事前に応募した中から選ばれた市内の小学5・6年生、中学生944名（対昨年度比：+585名）が、計36講座（対昨年度比：+17講座）に参加しました。

次ページからの各講座の様子や参加児童生徒の思い等をご覧いただければ幸いです。



- 過年度の様子等については、仙台市教育委員会ホームページ「楽学（がくがく）プロジェクト」をご覧ください。

<https://www.city.sendai.jp/shogaigakushu/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/joho/kodomomuke/rakugaku.html>

（または「楽学プロジェクト」で検索）



## 「博物館の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 菅原 美咲 先生, 小田嶋 なつみ 先生  
〔所属〕 仙台市博物館

■ 参加人数 19 人

講座担当者 高橋 和也

仙台市博物館から学芸員の菅原美咲先生と小田嶋なつみ先生に来ていただき、博物館の施設のことや仕事について教えていただきました。講座の後半では、学芸員の仕事を体験するというので、実際に博物館から持ってきていただいた展示品をグループで協力しながら展示する活動を行いました。

### 1. 博物館の仕事って？

講座の前半は博物館の仕事について学びました。仙台市博物館ではさまざまな職員が働いており、菅原先生や小田嶋先生のような学芸員の他にも、電気や機械などの設備管理やレストラン運営、清掃など、いろいろな仕事があることを教えていただきました。

学芸員の仕事についてはピクトグラムで教えていただきました。展示品を運ぶ、写真を撮影する、見て触って本で調べる、企画や展示の仕方について話し合う、解説や講座、授業を行うなど、実に多岐にわたることが分かりました。



### 2. さあ、展示に挑戦！！

講座の後半は展示に挑戦しました。実際に博物館から持ってきていただいた巻物や陣羽織、古銭などをグループで協力しながら展示する活動を行いました。ただ飾るのではなく、来館者にとって見やすい角度やパネルの位置、来館者の安全や歩く方向について話し合い、いろいろ試しながら展示していました。

最後は展示をお互いに見合っ、よいところを伝え合いました。



### 3. 質疑応答から

Q. 学芸員になるためにはどんな勉強をすればいいですか。

A. 一般には大学で必要な勉強をして資格を取ることが多いと思います。あとは自分の興味のある分野の勉強（歴史や美術など）をしておくといいと思います。

Q. どんな企画展をやってみたいですか。

A. ヒーローを時代ごとに集めて、共通点や変遷をしてみるのもおもしろいと思います。悪人に目を向けた企画もなかなかないので、やってみたいです。

### 4. まとめ

博物館の仕事では古い物や貴重なものを取り扱うことが多くなります。中には他の美術館や外国から借りて展示する物もあります。それらを傷つけてしまったり、なくしてしまったりすることは、取り返しのつかない大きな損失になってしまいます。そういった事故を防ぐために、取り扱う技術、専門の知識や責任感やチームワークなどがとても大切になってきます。日頃の生活からそういったところを意識してほしいと思います。

### 5. 児童生徒の感想紹介

○ これから博物館へ行くときは学んだことを意識しながら展示を見ようと思いました。  
(大野田小 5年生)

○ 展示を見てくれる人のことを考えて、見やすく、きれいに、安全にしているところがすごいと思いました。  
(国見小 6年生)

## 「テレビ局の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 古野 真也 先生  
〔所属〕 東北放送株式会社

■ 参加人数 22 人

講座担当者 武田 吉照

かつて東北放送のアナウンサーを7年間務めたご経験や、現在取り組まれている「テレビを売る」仕事の内容について、所々にQ&Aを交えながら、受講者が主体的に取り組めるように講座を進めていただきました。受講者の目線に立ち、寄り添いながらいろいろなお話を聞かせていただけたので、挙手や発言が多く見られた講座となりました。

### 1. 私たちとテレビ～受講者とのやりとりから～

「宮城県にはテレビ局は何局ありますか？」という古野先生の質問から講義が始まりました。お互いが知っている情報をもとに5つのテレビ局を挙げながら、アルファベットでの特別な呼び方などを聞き、みんな驚いた様子でした。その後は受講者全員が自分の名前と好きなテレビ番組を発表。「あ～！」と声上がる瞬間もあり、互いの話を共感的に聞き合う様子が印象的でした。

アナウンサーのご経験を生かし、受講者と共感的にコミュニケーションを図りながら終始和やかに講座を進められました。



### 2. 「テレビを売る」とは？～営業局のお仕事から～

アナウンサーとして勤務された後、「経営に関わりたい」という思いから、現在の営業局テレビ部に移った古野先生。15秒～120秒というCMの秒数や、番組の視聴率に応じたCM料の金額、「視聴率1%であれば約2万3千人の視聴者がいる。」など、数字を示しながらのテレビに関する具体的なお話に受講者も終始夢中になって聞き入っている様子でした。

アナウンサーの方からのメッセージビデオもあり、みんな大変喜んでいました。



### 3. 質疑応答から

Q. この仕事をしていて一番良かったことはどんなことですか。

A. 「いつも見えていますよ。」と、視聴者の方から声を掛けられた時が一番うれしいです。皆さんもぜひ、アナウンサーを見かけたら声を掛けてください。

Q. アナウンサー時代に一番気を付けていたことはどんなことですか。

A. CMに傷を付けないことです。CMは多くのスポンサーに支えられているため、その印象を下げてしまうことのないよう、言い回しなどに特に注意を払っていました。

### 4. まとめ

「サンドのぼんやり～ぬTV」を観ながら、「画面を通じて、番組の制作に関わっている人たちにどれくらい気付けるか？」という問いがありました。普段当たり前のように見ているテレビ番組ですが、それを支える人たちの存在や仕事の種類を知ることによって、テレビを見る視点が変わってきた受講者も多かったはず。実際の映像や具体的な資料をもとに、わかりやすく、丁寧にお話をいただき、新たな発見や学びの多い時間となりました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 華やかだと思っていたテレビ局の仕事でしたが、表に見えないところにたくさんの方がいて、いろいろな工夫をしていることがわかりました。 (旭丘小 6年生)
- お話が面白かったし、説明もとてもわかりやすく、小学生にとっても理解しやすい内容でした。 (寺岡小 6年生)

## 「アナウンサーの仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 渡辺 祥子 先生  
〔所属〕 フリーアナウンサー・朗読家

■ 参加人数 33 人

講座担当者 近江 麻江

「アナウンサーの仕事」では、司会やラジオのパーソナリティ、朗読家など多方面でご活躍されている渡辺祥子先生を講師としてお迎えし、仕事の内容や働くこと、生き方など、これまでのご経験をもとに分かりやすく教えていただきました。バイタリティあふれる素敵な方で、子どもたちは憧れの先生を前に緊張しながらも、真剣な表情でたくさんのお話を学ぼうとしていました。

### 1. 言葉の力 ～発声練習～

アナウンサーになって良かったことは、「“言葉の力”を知ったこと」と言う祥子先生。子どもたちは、「百羽のツル」の朗読を聞いたり、早口言葉にチャレンジしたりすることで、その力の意味を少しずつ理解していきました。先生から“魔法の言葉”を教えていただき、イントネーションや文章の区切れ等に気を付け練習することで、上手に読めるようになりました。その際、声のベクトルを意識することで、相手への伝わり方も変わることを学びました。



### 2. 言葉の大切さ ～原稿読みに挑戦！～

発声練習で学んだことを生かし、ニュースや天気予報等の原稿読みに挑戦しました。「伝えたいところの強調」や「間の取り方の意識」など、先生から一人ひとりに適切なアドバイスと丁寧なフィードバックがありました。そのおかげで、ビックリするほどの早さで上達し、自信を深めていきました。

また、通常自分たちが使っている話し言葉は約1,500語程度ですが、その言葉があらわす意味は約30,000もあると聞き、驚いていました。日本語は読み方が同じでも、アクセント一つで意味が変わり、イントネーションや文の区切り方でも、相手への伝わり方も変わるので、言葉の大切さを改めて実感したようです。



### 3. まとめ

言葉は生きる力を引き出すものですが、諸刃の剣で取り扱いには注意です。力のある言葉を良きものとして使っていきたいからこそ、言葉を大切にしたいと思います。それは、周りの人を大切にすることになり、自分を大切にすることにつながっていきます。

また、夢は自分の背中を押してくれるものであり、今の自分を輝かせてくれるものでもあります。みんなには自分十分の生き方、一日一日、その瞬間瞬間を大切に夢中になって取り組んでほしいですというメッセージをいただきました。このように、祥子先生には大人にも響く言葉をたくさんいただきました。



### 4. 児童生徒の感想紹介

- 祥子さんのお話を聞いて、より一層アナウンサーの仕事に興味を持ちました。働くということは、自分も楽しいから仕事をするんだなあと思いました。（栗生小 6年生）
- 放送委員の仕事で、滑舌が気になっていたのですが、「あいうえお」を心がけてみたいと思います。祥子先生の教え方が上手で分かりやすかったです。（八乙女小 5年生）

## 「栄養士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 氏家 幸子 先生, 星 由美子 先生, 今野 聖子 先生  
〔所属〕 仙台白百合女子大学, 仙台青葉学院短期大学, 榴岡小学校

■ 参加人数 18 人

講座担当者 石井 淳史

本講座では、栄養士の資格を持つ3名の先生方を講師に迎え、ライフステージに合わせた食事や栄養バランスを考えた食事を作ることを学びました。

また、講師の先生方が栄養士を目指したきっかけなどについて聞くことができました。

### 1. 栄養士の仕事について学ぼう

氏家先生のお話によると、栄養士や管理栄養士は、学校や病院、スポーツクラブ、研究所など、わたしたちの周りにあるたくさんの施設や機関で働いているそうです。

氏家先生は、身体の小さい幼児のための分量の少ない食事や、飲み込む力が弱い人のためのペースト状の食事などを紹介し、栄養士は、対象者に食事を提供する際に、その人のライフステージや身体状況に合わせて、「何を」「いつ」「どれくらい」「どのようにして」食べさせるかを考える仕事であることを教えてくださいました。

講座の後半では、自分のライフステージに合わせたお弁当の作り方について学びました。子どもたちは、自分の体格や年齢、1日の運動量から摂取すべきエネルギー量や栄養について考え、自分にふさわしい容量の弁当箱を選びました。

また、主菜や副菜、主食の栄養バランスを考えた適切な量についても学び、星先生が実際に栄養バランスを考えながら作った品目を弁当箱に詰めるところを実演して見せてくださいました。



### 2. 栄養士になるためには

講座の中で先生方が、栄養士を目指したきっかけについて話してくださいました。

料理好きな母の影響で、おいしい料理をみんなに食べてもらいたい、という思いを持ったという氏家先生、昔から食べることが大好きだったという星先生、小学校の調理実習で料理をすることの楽しさに目覚めたという今野先生…栄養士を目指した動機はそれぞれですが、3名とも自分や誰かのために食事を作ることが大好きな気持ちが伝わってきました。

氏家先生は、栄養士になると食事ができるまでについて知ることができるので食事の大切さが分かること、人と話すことが好きな人や自然や環境について関心がある人は栄養士の仕事に向いていることを教えてくださいました。

子どもたちは、熱心にメモをとりながら講師の先生方の話を聞いていました。



### 3. まとめ

氏家先生は講座の最後に、「人は、一生食事をし続けるので、栄養士の仕事は、他者のライフステージのあらゆる場面に関わりがある仕事です。栄養士や管理栄養士は、栄養バランスを考えた食事で人を健康にすることで、その人を幸せにするお仕事です。」と述べられました。

### 4. 児童生徒の感想紹介

- 栄養士になるためには、一人ひとり相手によりそい、その人の一番いいと思う食事の仕方を考えてあげることが大切だと思いました。(木町通小 5年生)
- 栄養士は、人々に幸せな食事を届けるのが仕事だと分かりました。また新しい夢への道が1つ増えました。(富沢小 6年生)

**「フラワーアレンジメント（花屋）の仕事」活動紹介**

- 講師：〔氏名〕 佐藤 由香里 先生  
〔所属〕 Bargeme（バルジェーム）

■ 参加人数 20 人

講座担当者 柴田 晃生

「フラワーアレンジメント（花屋）の仕事」では、Bargeme 代表の佐藤由香里先生を講師に迎え、4人のお子さんの子育てと仕事を両立させることの工夫や、看護助手からどんな経緯でお花屋さんの仕事に就いたのかなど、ご自分の経験と現在に至るまでの経緯についてわかりやすくお話いただきました。

**1. フラワーアレンジメント（花屋）の仕事**

花屋の仕事は、経営という立場で自分の個性を活かせるお仕事です。店舗のレイアウトや一日のスケジュールを自分で考え、自分で責任を持って実践する事がやりがいとなっています。25歳の頃から様々な資格を取得しましたが、特に、IFA国際アレンジメントフラワー協会（※）で取得した講師の資格やその時に学んだ技術が仕事に活かされています。フラワーアレンジメントを作る際には、お客様の要望に近づけられるようにイメージを詳しく聞き、真心を込めて丁寧に作ることを心掛けているそうです。（※ 現在は、CFDクリスタルフラワーデザイナーズ協会）

**2. フラワーアレンジメントの体験**

フラワーアレンジメント体験として、リース作りに挑戦しました。様々な木の実や葉などをグルーガンで貼り付けて仕上げます。何を、どこにつけるのかは自分次第です。色や形、全体の雰囲気などを意識して、自分の個性を發揮しながらオリジナルリースを作り上げました。子どもたちの作品を見て、先生から「自分以外の作品を見て刺激を受けました。これからまた良いものが作れそうです。」とお話いただきました。参加した子どもたちは創作の難しさに触れながらも、自分の思いを込めて作品を作り終えることができ、満足そうな表情をしていました。

**3. 質疑応答から**

- Q. お花の仕入れではどのような点に気をつけていますか。  
A. ①価格と質のバランス、②生き生きとした元気なお花、③珍しいお花、を3大条件としています。仕入れた花に手を加えて、元気になるよう加工もしています。
- Q. どんな時にお花が売れますか。  
A. 送別会や入学式、お彼岸などの行事がある月は花がよく売れます。店頭で並ぶ花の過不足が無いように、バランスを考えて仕入れるようにしています。

**4. 先生からのメッセージ**

以前までは違う職種の仕事に就いていましたが、自分の大好きなお花と一緒にいられることが幸せと気づきました。好きという気持ちが、仕事を長続きさせる秘訣です。自分は花屋を経営するまでに他の仕事をしなくてはいけないこともありましたが、みなさんには、たとえその夢に携わらない時期があったとしても夢を諦めないでほしいです。人生で遠回りをしたとしても諦めずにチャレンジし続けてほしいと思います。

**5. 児童生徒の感想紹介**

- アレンジをするときには、お客さんの話をよく聞き、その場に合う花や色を考えたり、希望をかなえたりすることが大切だということが分かりました。（国見小 5年生）
- 働くとは自分のやりたいことをやって自分自身を成長させるためのものだと思います。何があっても夢を諦めないで頑張ろうと思います。（虹の丘小 6年生）



## 「獣医師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 石川 佳苗 先生，後藤 美佐 先生  
〔所属〕 宮城野区保健福祉センター，特定非営利活動法人Aキューブ

■ 参加人数 19 人 講座担当者 高橋 克博

「獣医師の仕事」講座は，仙台市で獣医師として勤務されている石川佳苗先生と，小学校や福祉施設などで動物介在活動に携わっている後藤美佐先生を講師としてお迎えし，正しい犬との挨拶の仕方や1匹で歩いている犬に出会ったときの行動の仕方，また，多岐にわたる獣医師の仕事内容について教えていただきました。

### 1. 犬との挨拶の仕方・木になろう

道で飼い主と犬に出会った場合の正しい犬との挨拶の仕方についてでは，「触ってもいいですか？」と飼い主に聞くなどして触れ合い方を守ることや，飼い主と一緒にいる犬は相手と飼い主との関係を見ていることを学びました。

また，犬はつないで飼うことが義務付けられていますが，もし1匹で歩いている犬に出会ってしまったときは，手を体に付けて目を閉じて木のような姿勢を取り，犬が近寄って来ても動かないことが大切であることを学びました。



### 2. 獣医師の仕事

「獣医師の仕事」というと「動物病院」のイメージがありますが，実際は多岐にわたる仕事であることを学びました。

仙台市の公務員獣医師の職場として，担当課だけでなく，動物管理センターや八木山動物公園，食肉衛生検査所など，様々あります。八木山動物公園には，園内に専用の診察所があり，哺乳類や鳥類，爬虫類など，生き物全般の診察と治療を行います。サイやゾウといった大型動物の診療の際は，危険と隣り合わせの仕事であることを教えていただきました。



### 3. 質疑応答から

- Q. 犬（ペルル）が初めて学校に行ったとき，どうやって子どもたちと向き合いましたか。
- A. 初めて学校に行ったときはどきどきしていましたが，子どもたちがルールを守って触ってくれたので，犬（ペルル）は子どもたちのことを優しいと学びました。
- Q. 獣医師の仕事の苦勞はどのようなところですか。
- A. 公務員獣医師にはいろいろな仕事があり，分野が変わるたびに一から勉強が必要なことです。そして，命について考えることが多いです。

### 4. まとめ

石川先生は，動物が好きだったこと，高校時代に生物が得意だったことなどがきっかけとなり獣医師を目指したそうです。大学で学んでいく中で，得意なことや不得意なことが分かってくる，研究職に向いていると思ったそうです。そして，いろいろな人の役に立ちたいと思い，市役所に入りました。最後に，働くことの意味として「どんな仕事でも必ず面白さがあること。仕事を通して人とのつながりができること。」と話されていました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 獣医師の仕事の楽しさや大変なことをくわしく教えていただき，ありがとうございました。私は将来，動物に優しくできる獣医師になりたいです。（蒲町小 6年生）
- 印象に残っているのは，獣医師は「動物のお医者さん」だけではないということです。獣医師になるためには，たくさんの知識が必要だと思います。（宮教大附属小 6年生）

## 「水族館飼育員の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 佐藤 光優 先生, 坂本 聖哉 先生  
〔所属〕 仙台うみの杜水族館

■ 参加人数 32 人

講座担当者 河野 貴之

「水族館飼育員の仕事」では、仙台うみの杜水族館の魚類チームの佐藤光優先生、パフォーマンスチームの坂本聖哉先生を講師としてお迎えし、飼育員の仕事やイルカパフォーマンスの訓練方法などについて、スライドの映像や実演を通して楽しく教えていただきました。

### 1. 飼育員の仕事について

飼育員の主な仕事に、3つの「じ」（調餌、給餌、掃除）があります。調餌では、個々の生き物に合わせて餌の大きさを整えます。給餌では、餌を与えながら健康チェック（食べ方、口の中、表情や様子の変化）をします。掃除では、潜水用タンクを背負って巨大水槽の中を掃除します。子どもたちは実際のタンクを持ち上げたり背負ったりしてその重さを体験しました。



### 2. スタジアムライヴ（パフォーマンス）について

スタジアムライヴは、生き物たちの魅力を感じてもらえるよう、生き物たち（イルカ、アシカ、バード）とパフォーマー（飼育員）とゲスト（お客様）が一体となって創り上げるパフォーマンスです。生き物に芸を教えるには、ターゲットという道具を使ってトレーニングします。講座では、講師がイルカ役になって、実演をとおしてトレーニング方法を教えていただきました。



### 3. 質疑応答から

- Q. 仕事をしていて、幸せだなと思ったときはいつですか。  
A. イルカとコミュニケーションが取れたときです。また、図鑑でしか見たことのない生き物に触れたり、飼育できたりしたときにも幸せだなあと感じます。
- Q. 仕事をする上で大切にしていることは何ですか。  
A. 生き物の些細な変化に気付くことと、生き物の幸福度を左右するのは飼育員の仕事で大切なことです。また、見に来たお客様に、入場料以上の価値を提供できるように心掛けています。水槽をきれいにしたり、珍しい生き物をそろえたり、特別な場所や話を提供したりすることも重要です。

### 4. まとめ

水族館飼育員の仕事は、体力を必要とする仕事が多いし、生き物の生死と向き合う場面では精神的にきつくなることもあります。自分の担当する生き物の調子が悪いと、休日でも駆けつけることがあります。それでもこの仕事を続けているのは、生き物が大好きで、自分の仕事に誇りとやりがいを感じているからという言葉が心に残りました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 魚が好きで、水族館飼育員になってみたいと思い参加しました。色々な話を聞いて、より水族館飼育員になりたいという思いが強くなりました。（長町南小 6年生）
- 水族館の仕事は忙しくて大変そうだったが、自分の好きな仕事だから大変でもでき、自分の好きな職業に就けるのはすばらしいことだと思いました。（桜丘小 6年生）

## 「看護師の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 佐々木 周人 先生, 赤坂 佳乃 先生  
〔所属〕 仙台厚生病院

■ 参加人数 22 人

講座担当者 大場 俊宏

講師は仙台厚生病院に勤務されている佐々木周人先生と、赤坂佳乃先生でした。佐々木先生は東京で特別な研修を受け、感染管理認定看護師という資格をお持ちです。仙台厚生病院で、その資格を持っているのは佐々木先生だけだそうです。講座では、様々な実習を体験しながら、看護師の仕事の内容ややりがい、なり方について詳しく教えていただきました。

### 1. 講義「看護師の仕事と役割」

病院では、医師や看護師以外にも様々な人たちが働いています。皆で協力し、チームとなって患者さんの心と体のサポートをしていくため、相手のことをよく知る必要があるということで、受講生の皆さんで自己紹介をするところから始まりました。初めは緊張していた受講生もグループのメンバーの好きな物や好きなことを知ることによって、表情が柔らかくなりました。



### 2. 看護師体験「①患者さんを見る、②手洗い練習、③ガウンの着用」

体験①「患者さんを見る」では、看護師になったつもりで患者に声掛けをしたり質問をしたりしました。看護師を目指す児童の皆さんですので「いつからですか」、「何を食べましたか」などと積極的に質問することができました。

体験②「手洗い練習」では、しっかり洗ったつもりでも手には多くの菌が付いていること、手洗いをしないと感染が広がることなどについて学びました。

体験③「ガウンの着用」では、手術に立ち会う看護師が着用するガウンを着る体験を行いました。手洗いと同様に、感染予防の観点から手を触れずに着て、脱ぐということの大切さを改めて知ることができました。着脱に苦労しながらも皆で協力し合いながら行う姿が見られました。



### 3. 質疑応答から

- Q. 看護師の仕事のやりがいは何ですか。  
A. 患者さんが元気になることや、患者さんに「ありがとう」と感謝されることです。また、患者さんが自分の辛い気持ちを打ち明けてくれた時も、仕事のやりがいを感じます。

### 4. まとめ

看護師に限らず、就職後も勉強や挑戦は続くものです。佐々木先生が1年間、東京で研修を受けたように、仕事に就いてからでも自分のやりたいことや夢を諦めず、挑戦し続けていくことができます。看護師はやりがいのある仕事ですが、命や死と向き合う責任の重さもあります。看護師は、自分のことも大切にしながら働くこと、患者さんと心をつなげながら働くことが必要です。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 看護師の仕事の多さに驚きました。実際に体調の悪い人への対応をしてみて難しかったです。命の大切さについて学ぶことができました。(八乙女小 6年生)
- 医師や看護師が手術をするときに手を汚さないように気を付けているのが印象に残りました。今回の話を聞いてもっと夢に近づけた気がしました。(宮城野小 6年生)

## 「新幹線乗務員（車掌・運転士）の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 前田 亮先生、佐久名 洋平先生、安田 俊晴先生、浅野 弘樹先生、高野 翔平先生、千葉 亮介先生、安島 仁美先生、岡山 廣大先生、大島 佳奈子先生、千葉 建美先生、牧野 元成先生、我妻 学先生、仁宮 早季子先生、小松 航介先生、須藤 菜那先生、俵 翔太郎先生、上杉 知弘先生、前川 真先生、坂本 一馬先生、佐々木 智幸先生、大島 陽平先生、畠山 智之先生、町田 涼先生、中村 純一先生、佐々木 英俊先生、長濱 弘樹先生、小林 郁恵先生、大河内 伸剛先生、柴田 悟先生、山川 純平先生

〔所属〕 東日本旅客鉄道株式会社 仙台新幹線運輸区、盛岡新幹線運輸区

■ 参加人数 41人

講座担当者 加藤 徳明

日本国内の重要な交通手段であり、世界に誇る技術がいっぱい詰まった新幹線。子どもから大人までファンの多い新幹線を実際に動かし、業務を行っている方々に実際の仕事の内容や夢について熱く語っていただきました。

### 1. 新幹線を体験しよう

始めに、会場とJR東日本をリモートで繋ぎ、シミュレーターを使って、車掌の仕事の練習をしている様子や、運転席から見える時速320kmの世界を体験しました。



### 2. 乗務員（車掌・運転士）の仕事体験しよう

「はやぶさ」「こまち」「やまびこ」の、3つのグループに分かれ、以下の3つの活動を交代で行いました。

#### (1) 新幹線運転士の仕事

主に映像を見ながら、新幹線は地上に信号機がないことや、駅のホームで定位置に停止するために目視で確認していること等を教えてくださいました。

#### (2) 新幹線車掌の仕事

車内の案内放送やドアの開閉作業等様々な業務を行っていることが分かりました。安全確認に最善の注意を払っていると教えてくださいました。

#### (3) POS（車内補充券発行機）体験

車掌が実際に使用する手袋を付け、POS練習機を使って切符を発券する体験を行いました。ペアの児童が体を揺らすことで、実際の車両の揺れを再現しながら発券しました。



### 3. 質疑応答から

Q. 乗務員になってよかったことは何ですか。

A. 色々な場所に乗務して、たくさんの景色が見られ社会勉強になることです。3年に1回ぐらいのペースで転勤もありますが、様々な土地で多くの仲間ができることです。

Q. 新幹線と在来線との違いは何ですか。

A. 速度が違うため、それぞれに運転の難しさがあり乗務員によっても考えが違います。お客様の安全を考える点や目的地まで時間通りに運行する点はどちらも同じです。

### 4. まとめ

「夢は一生懸命努力し、あきらめなければかなうもの」「働くことは人に喜んでもらうこと」「友達が今までやらなかったことをやる時は、勇気を出している瞬間ということのを忘れず、否定しないこと」「絶対に役に立つ生き方は、何にでも一生懸命になれること」等、たくさんの勇気と希望にあふれるお話でした。先生方から夢行きの片道切符を受け取り、子どもたちはうれしそうな表情をしていました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 新幹線の事がもっと好きになり興味を持ちました。たくさん鉄道に乗って知識を増やし、JR東日本の社員になってお客さんを笑顔にしたいです。(幸町南小 6年生)
- とても丁寧に教えてくれて、とてもわかりやすかったです。話を聞いていて自分も今すぐなりたいなと思いました。(南光台小 5年生)

## 「洋菓子職人の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 渡邊 靖水 先生  
〔所属〕 とびばいさ甘座

■ 参加人数 22 人

講座担当者 勝又 真吾

「洋菓子職人の仕事」では、定禅寺通り沿いの洋菓子店「とびばいさ甘座」の渡邊靖水先生を講師としてお迎えし、業務に関することや、この仕事を続けていく上での熱い思いなどに関して教えていただきました。

### 1. 洋菓子職人の仕事～伝統の味を守り続ける～

「いつでも同じ味の商品を提供する」ということが、とても大事であり難しいということを教えていただき、季節に応じてレシピを調整したり、ベテランの職人の技術を引き継いだりすることの重要性について講話していただきました。また、仕事を行っていくうえで必要な調理師免許や製菓衛生士などの資格に関して詳しく説明していただきました。



### 2. 洋菓子職人の仕事～喜ばれる仕事を～

「誰かに褒められるよりも、誰かに喜ばれる仕事をしなさい」という父である先代の言葉を大事にしている、と話されました。絵を描くのが上手という得意なことを生かして、シュガークラフトやマジパン作りなどの技術を高められ、実際にデモンストレーションをして芸術作品のような見本を作る様子を見せていただきました。とても美しい見本の花や動物に子どもたちの目は釘付けでした。



### 3. 質疑応答から

- Q. この仕事をやっていて大変なことは何ですか。  
A. 休みたいと思ってもなかなか休むことができないことです。仕事は楽しいのですが、体力勝負の部分もあるかと思います。
- Q. たくさんの種類の商品がありますが、そのレシピをすべて覚えていますか。  
A. 覚えきれないのでメモしながら対応しています。すべてのレシピとなると、40種類の2～3倍になるので、100種類以上になります。

### 4. まとめ

「困った状況であっても、工夫を重ねながら取り組んできました。『合っている・合っていない』などと先入観で決めてしまわずに、クリエイティブな考え方を取り入れながら自分が活躍できる場所を探してきました。いろいろな可能性を信じながら、そして自分がしたいことを実現させるためにはどのようなことが必要なのかを考えながら頑張っていってほしいです。」というメッセージをいただきました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- よく見ているケーキだけでなく、シュガークラフトやウェディングケーキなども知ることができて楽しかったです。  
(上杉山通小 5年生)
- まだ決まっていなかった将来の夢をこの楽学プロジェクトで見つけました。この講座を受けてよかったと思いました。  
(岩切小 6年生)

## 「パン屋の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 遠藤 裕紀 先生, 佐藤 利幸 先生, 佐藤 沙織 先生  
〔所属〕 株式会社パンセ

■ 参加人数 24 人

講座担当者 奥山 祥彦

私たちが普段から食べているパン。スーパーやコンビニで買ったりお店で楽しんだり、パンは私たちの生活に欠かせないものとなっています。この講座では、県内12か所に店舗を展開する株式会社パンセより3人の先生方を招き、パンの作り方やその大変さ、売り方の工夫などについて教えていただきました。

### 1. 仕事の中で工夫しているところ

パンセは、パンを作ることと売ることを同時に行っているお店で、それぞれに工夫ややりがい、大変さがあることを教えていただきました。パンを作る時は、分量をきちんと量ることが大切で、秤を使って重さを均等にします。そうしないと、きちんとしたパンが焼けないそうです。

また、常に焼きたてを提供するために、焼く回数や販売するときのポップの立て方、パンの配置場所などを工夫してパンがよく売れるようにしています。レジの人は、一つ一つのパンの名前や値段を覚え、レジ清算中に焼きたてができたらパンを交換して焼きたてをお客さんに渡していることもお話いただきました。



### 2. グルテンを取り出してみよう

休憩後、小麦粉と水の入ったボウルが渡されました。「なにこれ？」と言う子どもたちの前で先生が小麦粉を練ってみせると、あっという間にボール型に固まりました。子どもたちも練り始めましたが、なかなか固まらず。やっと形になると、先生は「今度はそれを水の入った別のボウルに入れてもんでみましょう。」と言いました。「溶けちゃうよ。」と言いながらもんでみると、何やら黄色っぽい粒々が現れました。これがグルテンで、パンをおいしくする成分なのだそうです。小麦粉と水を練るとグルテンができることに子どもたちは驚いていました。

### 3. 質疑応答から

- Q. 新作のパンはどのようにして出来上がるのですか。  
A. 新作のパンは、会社で研究開発したり、各店舗でアイデアを出して試作したりして出来上がります。季節に合わせてたり地元の食材に目を付けたりして考えています。

### 4. まとめ

「会社として一番大事にしていることは、社会の役に立つことです。地域の人に喜んでもらえたり、愛されたりする仕事をした結果として、お金を稼ぐことに自然とつながります。また、働くことで大切にしてほしいことは、素直さです。人や先輩の話をたくさん聞き、良いことを真似することで、人としての力がついていきます。誠実さも同じように大切です、うそをつかない、挨拶をきちんとするといったことも働く上で重要です。」と教えていただきました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- グルテンの仕組み、パンの仕込の秘密など知れて満足です。 (北中山小 6年生)
- 味だけでなくお店のきれいさや接客があつて、やっとパンが売れるということが分かりました。 (東仙台中 3年生)

## 「ウェディングプランナーの仕事」活動紹介

- 講師： [氏名] 成塚 久美子 先生口
- アシスタント： [氏名] 佐藤 加奈 先生, 奥田 真以 先生, 長谷 智巳 先生  
[所属] みやぎブライダル協議会
- 参加人数 21人

講座担当者 菅原 浩江

みやぎブライダル協議会所属の成塚久美子先生（スカイパレスアソシエイツ）を講師に迎え、アシスタントの佐藤加奈先生と奥田真以先生（オーダーブライダルパレスへいあん）、長谷智巳先生（スカイパレスアソシエイツ）にサポートいただきながらウェディングプランナーの仕事について理解を深めることができました。体験学習では、三幸学園仙台ウェディング&ブライダル専門学校の生徒さんが新郎新婦役を引き受けてくださり、子どもたちは本番さながらの模擬挙式に参列することができました。

### 1. ウェディングプランナーの仕事

ウェディングプランナーは、新郎新婦にとって非常に大切な一日のお手伝いができる、とても幸せなお仕事です。ゲストにお招きした方々に、自分たちの結婚式を通してどういう想いを届けたいのか、新郎新婦と結婚式を行う半年前から段取りを重ねて当日を迎えます。



### 2. 模擬挙式体験

講座会場を即席の挙式会場にして、模擬挙式の体験を行いました。参加している子どもたちはウェディングプランナーの仕事を実感することができました。子どもたち全員で協力して会場準備に取り掛かり、花嫁さんのアクセサリーを装飾させてもらったり、新郎新婦へ「おめでとう」の気持ちを添えて花束を渡したりと、普段味わうことができない貴重な体験をすることができました。



### 3. 質疑応答から

- Q. 新郎と新婦で意見や想いが合わなくて喧嘩になったときはどうするのですか。
- A. 両方の話をきちんと聞いて真摯にお二人の気持ちに寄り添えば、おのずと解決策は見つかります。

### 4. まとめ

結婚式とは、新たな人生がスタートするけじめであり、夫婦になったあかしを見守ってもらう式です。「ありがとう」という感謝の気持ちと、「結婚して夫婦になりました。二人で新しい家庭をつくります。」というけじめの思いを、ゲストの皆様へ伝えるセレモニーなのです。

模擬挙式では、素敵な新郎新婦役の学生さんとも触れ合えてリアルな体験ができ、充実した時間となりました。講座の最後に先生から「将来、ウェディングプランナーになってみたい人はいますか？」と尋ねられ、子どもたちのほぼ全員が元気よく手を挙げていました。先生方は満面の笑顔で大きな拍手をしていました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- カップルの方の大切な思い出を担当できるウェディングプランナーがとても素敵でした。将来結婚式にかかわる仕事をしたいと思いました。（長町小 6年生）
- 模擬挙式に参加してみて将来ウェディングプランナーとして仕事をしてみたいと思いました。自分も華やかな結婚式をしたいと思いました。（北中山小 5年生）

## 「パイロットの仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 河上 祐輝 先生, 新田 慎也 先生  
〔所属〕 アイベックスエアラインズ株式会社

■ 参加人数 28 人

講座担当者 武田 吉照

アイベックスエアラインズ株式会社から2名の機長をお迎えし、パイロットの業務や、仕事のやりがいなどをお話しいただきました。ある設定の下、日本地図に自分たちで航路を書き出したり、空港への着陸業務を体験したりと、体験も交えながらあっという間に90分が経ったという印象でした。

### 1. パイロットの仕事～「操縦が全てではない」～

講義の冒頭は、同じテーブルのペアで数分のディスカッションからスタート。アイスブレイクに加え「限られた時間内に答えを見つける」という、パイロットに求められる資質を体得するというねらいもあったそうです。「パイロットの資質は操縦が全てではない」という河上先生のお話の意味を、参加者もよく理解できたようです。その他にも講義全体を通じ、「コミュニケーション力」「副操縦士やキャビンアテンダントなど、周囲とのチームワーク」の大切さもお話しいただきました。



### 2. 気分はまるでパイロット！～様々な体験を通して～

講義の中で様々な体験をさせてもらいました。ある想定の下、理想的な航路をペアで話し合ったり、飛行機役とパイロット役を決め、空港への着陸の体験をしたりと、参加者は終始目を輝かせて取り組みました。閉講式後には、河上先生と新田先生が普段着用しているものと同じ制服を着させてもらいました。「肩に4本のラインが入ったものが機長の証」というお話もあり、特別な気分を味わえたようです。参加した子どもたちの多くがパイロット志望ということもあり、終始興奮した様子でした。



### 3. 質疑応答から

- Q. これまでで一番大変だったフライトを教えてください。
- A. 機内与圧に関わる装置の異常を示すエラー表示が出た時です。乗客の安全を守ることと、着陸を同時に進めなければならず、対応に苦労しました。
- Q. 乗客の命を背負うことは怖いことですか。
- A. 「怖くて機長になれない。」と先輩に相談したら、「怖さを持っていることが安全につながる。」と教わり、そこから考え方が変わりました。

### 4. まとめ

「パイロットになるためには、訓練と試験を何度もクリアする必要がある。」というお話の一方、「大変だけど、それを乗り越えた先に待っている達成感や、やりがいがとても大きな仕事。」というお話もあり、子どもたちは真剣な表情で、お二人の先生の話聞いていました。憧れのパイロットになるための具体的なステップや、必要な資質について学びつつ、働くことの意義についても、深く考えることができた時間となりました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- パイロットになるための勉強をたくさんすればいいだけでなく、日々の健康管理や周りの人とのコミュニケーションの習慣も大切だとわかりました。(金剛沢小 6年生)
- 自分がパイロットになれることはないと思っていたけど、想像以上に、自分にもできそうだと感じられました。(高砂中 2年生)



## 「キャビンアテンダント（CA）の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 細川 香澄 先生, 武田 聡美 先生, 高橋 拓哉 先生  
〔所属〕 アイベックスエアラインズ株式会社

■ 参加人数 30 人

講座担当者 遠藤 勝彦

細川香澄先生が中心となって、パワーポイントで写真や動画を提示しながら丁寧に説明してくださいました。また、普段使用している持ち物や救命胴衣などを持ち込み、実物に触れる機会を作ったり、講話の前に制服へ着替えたりしてくださったことが、子どもたちの興味関心をさらに高めていました。

### 1. キャビンアテンダントの仕事～キャビンアテンダントに必要な力～

キャビンアテンダントに必要な力について、実体験に基づいて3つ（コミュニケーション力、保安力、客観力）教えていただきました。コミュニケーション力については、ペアで写真の内容を伝え合う活動を通して、言葉で伝えることの難しさや大切さについて学びました。保安力については、部屋に隠された危険物（写真）を協力して探す活動を通して、機内へ持ち込みできない物について知ることができました。



### 2. キャビンアテンダントの仕事～お仕事体験～

救命胴衣の着用やシートベルトの着脱について体験しました。救命胴衣の膨らむ速さや空気が抜けにくいこと、シートベルトが簡単に外れないことを通して客室内の安全性の高さを学びました。また、機内アナウンス体験では、難しい内容の原稿を一度で正確に相手へ伝えることの難しさを実感していました。先生が実際に機内アナウンスを行ってみせると、子どもたち全員が聞き入っていました。



### 3. 質疑応答から

- Q. 仕事をしていて印象に残っているエピソードはありますか。  
A. 繰り返し飛行機を利用するお客様が、自分の名前を覚えてくださっていたとき、嬉しさが込み上げました。
- Q. キャビンアテンダントになるために今からできることがあったら教えてください。  
A. 英語に一生懸命取り組み、TOEICで550点以上を目指すと良いです。また、体力がとても必要な仕事なので、運動をたくさんすると良いです。

### 4. まとめ

華やかに見える職業ですが、お客様の命を預かるとても責任のある仕事です。また、働く時間が不規則なので、体力的にもとても大変です。しかし、無事にフライトを終えた時やお客様から「ありがとう」と感謝をされた時は、空の旅だからこそ感じられる特別な安心感や達成感を得られる本当にすばらしい職業です。今、目標に向かって一生懸命取り組んでいることがキャビンアテンダントの道につながると思います。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 想像以上に肉体的にも精神的にも大変そうな仕事が多く驚きましたが、1日に3～4便も乗っていると聞き、CAへの憧れが強くなりました。(八幡小 6年生)
- 小学校3年生の頃からキャビンアテンダントになりたいと思うようになり、今日のお話を聞いて、もっと知識を深めたいと思いました。(七北田中 1年生)

## 「自衛隊の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 戸嶋 美和子 先生, 三浦 和幸 先生  
〔所属〕 自衛隊宮城地方協力本部

■ 参加人数 13 人

講座担当者 鈴木 峻

ビシッとした制服と格好いい迷彩服を身にまとったお二人から、自衛隊の活動や職種、入隊後の訓練の仕方などをお話しいただきました。後半には、実際に使われているリュックや顔に塗るドーラン、制帽・制服などを着用して自衛隊員になる体験をさせていただき、子どもたちは目を輝かせて話を聞いたり、実物に触れたりしていました。

### 1. 自衛官としての仕事

陸・海・空の3つの組織についてそれぞれの活動や役割の違いを学びました。戸嶋さんや三浦さんが所属する陸上自衛隊の野戦特科という職種では、大砲を扱う訓練をするそうです。実際に行った訓練についての話では、その過酷さや、心情の変化を具体的にお話しいただき、入隊を希望している子どもたちは興味津々な様子でした。

最後に戸嶋さんから、仕事のやりがいや、隊員同士の絆、自衛官としての誇りについてお話をいただきました。



### 2. 制服・背のう・ドーラン体験

講座の後半には、実際に使われている制服や制帽を着用したり「背のう」という訓練時に使用されるリュックを背負ったりする体験をし、重さ約15kgの背のうの重さに驚いていました。相手から自分の姿を見つかりにくくする際に使用する「ドーラン」を顔に塗ることもでき、子どもたちは、ドーランや制服で自衛隊に入隊した気分を味わっていました。体験を通して、初めて出会った子どもたち同士が、まるで以前からの友達のように仲良くなることができ、楽しく学び合えたひとときとなりました。



### 3. 質疑応答から

- Q. 普段は、どのような訓練を行っているのですか。  
A. 職種や職域によって異なる専門分野の訓練があります。検閲という訓練では、3～4日間を自分たちで食料や寝床を確保して過ごす訓練をしています。
- Q. 入隊時の職種はどうやって決めるのですか。  
A. 陸上・海上・航空の3種類は自分が希望するところを受験できます。数十種類ある職種は入隊後に適性検査と希望調査を行い、自分に適した職種に就きます。

### 4. まとめ

「自衛隊の仕事は、有事の際に日本を守ること。」「誰一人として戦争をしたいと思っている人はいない。」など、言葉の端々に仕事に対する誇りと熱い思いが込められていました。辛い訓練や昇格試験も、仲間や家族の温かさに励まされて乗り越えることができ、日々の暮らしが平和であることに感謝の気持ちを持てるようになったそうです。子どもたちには、夢中になれるものや、身近にいる仲間を大切にしてほしいと伝えられました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 普段ネットで調べても分からない実際の自衛隊員の方の話や思っていることなどが聞けて、普通に生活してはできない貴重な体験ができました。(幸町南小 5年生)
- 自衛隊がいるからこの平和が続いていると分かりました。また、日本を守るために様々な職種があり、私たちを守っていることを学びました。やはり、人の役に立つというのはカッコいいことだと分かり、人の役に立てる職業につきたいと思いました。(宮教大附属中 3年生)

## 「ロケットエンジンに関わる研究開発の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 島垣 満 先生  
〔所属〕 宇宙航空研究開発機構 角田宇宙センター

■ 参加人数 37 人

講座担当者 門脇 駿

角田宇宙センターでロケットエンジンの研究開発をしている島垣満先生をお迎えし、宇宙に関わる仕事、現在研究されている仕事、島垣先生が今の職業に就くまでのご経験などをお話いただきました。参加した受講生37名は、熱心に耳を傾け、積極的に質問をしていました。

### 1. 宇宙に関わるお仕事

宇宙に関わる仕事の説明がありました。つくば宇宙センターや種子島宇宙センターなどの宇宙航空研究開発機構（JAXA）の施設で行われている研究や、月面探査を目指す民間の会社などを紹介いただきました。島垣先生が所属する角田宇宙センターでは、日本からアメリカまで1時間で到着できるエンジンの研究をしていることを知り、子どもたちは驚いた表情を見せたり、熱心にメモを取ったりしながら聞いていました。



### 2. 研究って何？

ロケットエンジンの研究でどんなことをしているのか、映像を交えた説明がありました。大小様々なたくさんの失敗から1つの成功が生まれるため、失敗したときこそ「思考」することが大切と教えていただきました。島垣さんの研究ノートやセンサーなどの実物の部品を一人一人に見せていただき、子どもたちは手に取ってじっくりと見ていました。休憩時には島垣先生の周りに子どもたちが集まり、積極的に質問していました。



### 3. 質疑応答から

- Q. なぜ宇宙には酸素がないのに、燃料を燃やして宇宙に行けるのですか。  
A. ロケットの中に液体の酸素を一緒に積んでいるので、燃料を燃やすことができます。
- Q. 仕事をする上で大切にしていることは何ですか。  
A. データと向き合って「思考」すること。謙虚に、正しく、人と自分の比較は絶対しないで「自己肯定」すること。また、「知的好奇心」を大切にしています。

### 4. まとめ

研究では失敗することが多く、成功はほんの一握りです。失敗から得られたデータと向き合って「思考」することが大切です。「思考力」を身に付けていると、その失敗についてどう向き合うのかが見えてきます。また、研究したことを論文にする「国語力」も大切です。変化を恐れずに、興味があること以外にも目を向けるように意識しながら、ワクワクするものに出会ってほしいです。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 宇宙の今まで知らなかったことや、図鑑に載っていないことも知ることができて、宇宙のことがもっと好きになりました。  
(六郷小 5年生)
- 「国語力」が重要なことを知ったり、実験ノートを見せていただいてどのようにまとめているのかを知ったり、エンジンに関わる様々なことが学びました。  
(富沢中 2年生)

## 「プロスポーツ選手の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 佐藤 濯 先生, 稲實 杏翼 先生  
〔所属〕 株式会社仙台89ERS

■ 参加人数 35 人

講座担当者 三浦 健輔

仙台89ERSバスケットボールスクールコーチを務めている佐藤濯先生と稲實杏翼先生をお迎えし、「プロスポーツ選手の仕事」について学びました。プロバスケットボール選手としての仕事内容をご説明いただき、佐藤先生からは職業に就くまでのご経験や仕事への思いをお話しいただきました。参加した受講生35名は、熱心に耳を傾けていました。

### 1. 選手の一日を考える。

輝かしく活躍している現役選手の一日のスケジュールを教えてくださいました。オフシーズンには、朝5時に起床して食事を済ませた後にエクササイズをしていることを聞き、受講生は驚きを隠せませんでした。オフシーズンもシーズン中と関係なく最大のパフォーマンスを発揮するために準備していることを教えてくださいました。また、プロスポーツ選手は、通訳、トレーナー、マネージャー、ストレングスコーチなどの多くの人の支えがあって仕事ができていることも教えてくださいました。



### 2. 自分の目標を考え、発表しよう。

なりたい自分の姿をプリントに記入し、制限時間内に会場にいる3人以上に発表するというワークショップを行いました。受講生は最初、声が小さく恐る恐る話をしていました。そこで、佐藤先生は2本の動画を紹介し、「恐怖の向こう側には、最高の瞬間が待っている」、「恥ずかしいけれど、人からの評価を気にせずダイブしよう」と熱く話をされました。受講生たちは、一歩踏み出す勇気の大切さについて学びました。



### 3. 質疑応答から

Q. どのような努力をしてきましたか。

A. みなさんは、努力とはどういうものだと思いますか？私は、自分で努力だと決めつけていません。なぜならば、なりたい自分になるために必要なことをやってきたからです。一日一日をどう取り組むかが大切です。本気でやろう、諦めず続ければ、プロスポーツ選手になれます。



### 4. まとめ

佐藤先生から「プロスポーツ選手になるためには、色々な道筋があります。まだ小・中学生だからこそ、自分がどう見られているかや、人からの評価を気にしても仕方ありません。なりたい自分になるために、とことん一生懸命やって欲しいと思います。人生は、一度しかありません。ワクワクする自分に会いましょう、なりたい自分になりましょう。」と明るくパワフルにお話しいただきました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 自分の行動に自信を持ってダイブしてみれば、その先に最高の瞬間があるということを知りました。 (栗生小 6年生)
- 夢に向かって諦めず、他人の評価を気にせず、やり続けることが大事であると学びました。夢に向かって一歩踏み出すことができました。 (富沢小 6年生)

**「音響・照明の仕事」活動紹介**

- 講師：〔氏名〕 伊藤 幸夫 先生, 川久保 昌 先生  
〔所属〕 株式会社東北共立

■ 参加人数 20 人

講座担当者 柴田 晃生

音響・照明の仕事について、株式会社東北共立から伊藤幸夫先生と川久保昌先生をお招きしてお話しいただきました。裏方としてステージを見えない場所から支えている音響や照明の具体的な機材の配置や使い方を教えていただきました。テレビで取り上げられた際の映像を見て知識を深めたり、仕事の大変さややりがいについてのお話を聞いたりしました。

**1. 「音響・照明の業務内容」**

音響や照明の機材を使いこなし、舞台やコンサートなどでの演出や技術的なサポートを行います。マイクやライトなどの機材は日々進歩しています。それらを用途に合わせて設置することで全ての聴衆が良い響きで聞けるようにしたり、出演者の魅力を引き出すライティングをしたりします。準備に時間や手間がかかりますが、どんなに遅い時刻になったとしても、より良いものを作るために妥協することはありません。

「失敗しないのが当たり前」という緊張の中で、本番で音がしっかりと聞こえたり、予定通り照明を当てたりするなど、成功した時はスタッフとしてのやりがいを感じるそうです。

**2. 「この仕事に就くために」**

必要な学歴や資格は特に無く、学校を卒業後に、音響等を専門に扱う会社への就職を目指すのが一番の近道かもしれないという話がありました。必要な知識や技術は現場で身に付けるものが多く、先輩から教えてもらって地道に経験を積み、できることを増やしていきます。初めは失敗することも多いですが、できるようになっていくと、仕事のおもしろさを感じるようになってお話しされていました。

**3. 質疑応答から**

- Q. テレビで見かけるビームのような照明（レーザー）はどうやっているのですか。  
A. レーザーは煙や炎と同じ特殊効果として分けられていて、照明の一種ではありません。特殊効果担当のスタッフが行います。
- Q. 1回の舞台でかかる電気料金はどれくらいですか。  
A. 内容によっては発電機等を使用したりするので、発電機や燃料代がかかった料金となる場合があります。（電気代としてかなりの金額になる場合もあるようです。）

**4. まとめ**

もともと裏方の仕事に興味を持っていた子どもたちが多く参加しました。失敗できない緊張感の中で懸命に取り組むことで、成功した時の達成感を感じられるという話を聞き、仕事に向かう真摯な姿勢や高い責任感に、驚きと同時にあこがれを抱いた子が多くいたようでした。最後に先生から「真剣に取り組める仕事に出会えるよう、夢に向かって頑張ってほしい。」とエールを送ってもらいました。

**5. 児童生徒の感想紹介**

- 失敗が出来ないというプレッシャーがかかっている中で、必ず成功させるのがすごいと思いました。音響・照明についてさらに興味を持ちました。（古城小 6年生）
- 今回学んだ仕事は表立って目立つ仕事ではなく裏側の仕事でしたが、達成感はどうな仕事よりも素晴らしいものだと思います。私も情熱を持てる仕事に就きたいです。（五橋中 2年生）

## 「警察の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 山内 智広 先生, 清澤 直志 先生  
〔所属〕 宮城県仙台東警察署

■ 参加人数 24 人

講座担当者 針生 真由美

長年様々なキャリアを積み、警察学校で指導する立場等の経験をお持ちの山内智広先生を講師としてお迎えし、一人前の警察官になるまでの過程とともに訓練方法を教えていただきました。体験活動では、指紋採取方法を学ばせていただきました。

### 1. 警察の仕事～警察官になるまで～

公務員試験に合格した後に、警察学校に6ヶ月～10ヶ月入所し、1日中訓練を受けます。警察学校を卒業してから、日常の業務を遂行することができます。また、警察官の人数は、法律で定められており、宮城県警の職員は約4,300人で、うち約500名が事務職となっています。警察は、市民が安心して暮らせるように、危険から守り、犯罪の捜査をし、様々な形で生活を守ってくれていることを丁寧に教えてくださいました。また、いったん宮城県警を辞めてから東北管区警察学校の育成部門に関わった際の、管轄を超えた貴重な体験のお話も伺うことができました。



### 2. 警察の仕事～実演（指紋採取）と白バイ隊員訓練の様子（映像）～

粉末法の指紋採取では、ハケで余分な粉末を払い、指紋に粉を付着させて検出する方法を実演しました。子どもたちは、初めて行う指紋採取に緊張しながらも、粉の調整を上手に行いながら、指紋採取に成功していました。警察官の耐刃チョッキや手錠、警棒等に実際に触れることで、警察官の責務と使命感を強く感じたようでした。また、白バイ隊員の訓練動画では、見ている本人が実際にバイクを操縦している感覚の映像で、操縦の難しさを知った受講生も多数いました。



### 3. 質疑応答から

- Q. 警察官になる為に必要な資格を教えてください。
- A. 採用試験は、2つの分類があり、大学卒業枠と大学卒業以外の枠に分けられます。採用後の警察学校入所期間が変わります。特に資格は必要ありません。
- Q. 警察学校の食事は美味しいですか。
- A. 栄養に十分配慮されており、とても美味しいです。

### 4. まとめ

警察官の仕事は、犯罪捜査等の「刑事」、防犯指導や非行防止等の「生活安全」、交通事故防止や交通事故の処理等の「交通」、市民の生活と安全を守る「地域警察」等、各部署に分かれていますが、基本は市民が安全・安心に暮らせるために混乱や危険から守る仕事です。一番のやりがいは、解決した際に感謝の言葉をもらった時で、「従事していて良かった」と感じるそうです。最後に、今日の受講生と将来一緒に仕事ができることを楽しみに、人々のために頑張っていきたいとおっしゃっていました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 最初は警察官になりたいとは思っていませんでしたが、講座を受講し、警察官になりたいと思いました。犯人を特定する仕事をしたいです。指紋採取は最初はうまくできなかったけど、上手にできたので嬉しかったです。楽しく受講できました。(上杉山通小 6年生)
- 実技等が実際にできてとても嬉しかったです。また受講したいのですが高校生になってしまうので残念です。警察手帳に触れることができ、嬉しかったです。(中田中 3年生)

## 「スポーツトレーナーの仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 江刺 善之 先生  
〔所属〕 アスリートジャパン Esashi

■ 参加人数 19 人

講座担当者 竹内 一馬

講師は、一流のアスリートとも関わりがある、アスリートジャパン Esashi の江刺善之先生です。講座では、選手が最大限に実力を発揮できるよう、サポートやケアをする仕事について、実際に体を動かしながら分かりやすく教えていただきました。参加者もスポーツをしている子が多く、熱心に学びました。

### 1. スポーツトレーナーの仕事

選手が最高のパフォーマンスを発揮できる状態に心身を持っていくための、「コンディショニング」を行う仕事です。筋肉の状態、精神の状態、怪我からのリハビリなど、選手を身体面・精神面でサポートをします。

ウォーミングアップやストレッチといったトレーニングだけではなく、身体を作る栄養、筋肉や骨格などの知識を得る必要性や、選手やチームとのコミュニケーションの大切さを教えていただきました。



### 2. スポーツトレーナーになるには

学校に行ったり講習を受けたりして、スポーツに必要なトレーニングの方法や栄養学の知識を身に付けます。江刺先生の持っているアスレチックトレーナーの資格は、700時間を超える講習が必要なのだそうです。

また、柔道整復師や理学療法士といった医療の資格を持っている人も多いそうです。

江刺先生は今でも勉強を続けているとのこと、学ぶことの大切さも教えていただきました。



### 3. 質疑応答から

Q. 選手が怪我をしないようにするため、伝えていることはありますか。

A. ウォーミングアップやアイシングなど身体のトレーニングだけではなく、疲労を取ったり体を冷やしたりする食事トレーニングも大切にしています。



### 4. まとめ

スポーツトレーナーの仕事で大切なことは、選手やチームを明るく前向きにすることで。そのために必要な「コミュニケーション能力」を磨くこと、具体的には「挨拶」をしつかりすることなどについて、明るく楽しくお話いただきました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- コンディショニングや骨の話、栄養などを学べて良かったです。将来、陸上選手になりたいので、陸上について教えてもらえて良い経験になりました。(七郷小 6年生)
- 明るく前向きに考え、自分から積極的に行動することが大切だと改めて分かりました。普段の行動や食事なども気を付けていきたいと思いました。(東華中 1年生)

## 「医師の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 島村 弘宗 先生  
〔所属〕 国立病院機構 仙台医療センター

■ 参加人数 40 人

講座担当者 沼倉 まゆみ

10年以上にわたり楽学プロジェクト講師としてご協力頂いている島村先生より、子どもたちが毎年関心を持つ内容についてお話いただきました。先生がなぜ外科医を目指されたのかということと、勤務している病院についてもご紹介いただきました。

### 1. 医療現場の様子について

医師の仕事について、患者さんを診る以外にも専門があることを動画や画像で分かりやすく説明していただきました。特に子どもたちは癌の手術の様子を興味深く見ていました。切除をするところはなんとも生々しい場面でした。また、日本人が長寿になったことから癌をわずらう人たちが増えたということに驚き、治療の仕方が何種類もあることや副作用についてなど、熱心にメモをし、ノートに分かりやすくまとめる子どもたちが多くいました。



### 2. 手術の仕方を体験しよう

手術で使用する道具を使って、手術の手法を実際に体験しました。普段私たちが使用する縫い針は直線であるのに対して、手術で使用する縫い針は曲線になっているため、きれいに縫うためには手首を上手に動かすことと、道具に慣れることの大切さについて、先生から教わりました。子どもたちは、先生からの指示をしっかりと聞いて、初めて体験する「手術」に心躍らせていました。



### 3. 質疑応答から

- Q. 医師になって大変なことは何ですか。  
A. 働き始めの頃は、病名や薬品名、患者さんや看護師さんの氏名などを記憶することが大変でした。当直も大変でした。  
Q. 仕事をしていて大切だと思うことは何ですか。  
A. 患者さんがどんな気持ちでいるか、何を望んでいるかというように、患者さんに心を寄せることを一番に考えています。

### 4. まとめ

講座の最後に先生から「夢を叶えるための3つのこと」についてお話がありました。  
1. どうしたら夢が叶うかを何度も立ち止まって考えよう。今の自分に足りないことは何かを考えましょう。2. 言葉を大切にしよう。将来患者さんときちんと話せるように、今のうちから相手の気持ちを考えて話すことを心掛けましょう。3. 世界に目を向けよう。ぜひ、世界に通用する医師を目指しましょう。  
とても心強い言葉をいただき、子どもたちは目を輝かせたまま会を終了することができました。ありがとうございました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 実際の手術の様子を見たり、先生の話の聞いたりして、医療現場には様々な仕事をしている人がいることを知りました。ネットで文章を読むのよりとても良かったです。  
(広瀬中 3年生)
- 医学はどんどん進んでいることを知り、自分も医学を進める一人になりたいと思いました。  
(富沢小 5年生)



## 「動物園飼育員の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 木内 明子 先生  
〔所属〕 仙台市八木山動物公園 飼育展示課
- 参加人数 47 人

講座担当者 峯 亮

動物園で仕事をする動物園飼育員の仕事について、仙台市八木山動物公園の木内明子先生をお招きし、動物園飼育員の一日の仕事や絶滅危惧種であるヒガシクロサイの出産を補助した経験などのお話を通して、「働くとは」について考えました。

## 1. 動物園飼育員の一日

動物園飼育員の一日の仕事は、朝のミーティングから始まることを学びました。掃除や餌やりの仕事のほかに、爪のお手入れや血液検査、展示場の整備などの特別な仕事もあることを教えていただきました。さらに、動物園飼育員の仕事は、①動物の健康を守ること、②動物について知ってもらうこと、③動物について研究すること、が大切だということを学びました。

また、絶滅危惧種のヒガシクロサイの出産について学び、飼育はうまくいくときばかりではないけれど、動物の誕生や成長はすばらしいことを教えていただきました。



## 2. 動物たちの健康を守るために

動物たちの健康を守るために、安全に動物たちの検査をする方法を学びました。検査する方法は動物の種類によって異なり、麻酔をかける、捕まえる、トレーニングすることを教えていただきました。さらに、たも網を使って小動物を捕まえる方法を実践形式で教えていただき、実際にたも網を使って、ぬいぐるみを捕まえました。また、人と動物の安全のために信頼関係を作ることが大切だということを教えていただきました。



## 3. 質疑応答から

- Q. この仕事をしていて、つらいこと、大変なことは何ですか。
- A. 長く付き合った動物の命を、状況によっては人の手で終わりにしなくてはいけないことです。また、体力が必要で、夏は暑く、冬は寒いです。さらに危険な仕事も多いです。
- Q. この仕事をしていて、うれしいこと、楽しいことは何ですか。
- A. 動物の誕生や成長を見ることがもうれしいですが、動物について毎日新たな発見がある時です。また、掃除やイベント、ガイドなどでスキルアップを感じられた時です。

## 4. まとめ

働く理由は、お金のためや自分のしたいことをするためなど人それぞれですが、自分が働くときに何を大切にしたいかを考えることが大切であること、さらに、動物園飼育員になるために、必要な勉強、大学と専門学校の違いなどを教えていただきました。また、色々なことを体験して、自分のやりたいことと出会うことを大切にしてほしいというお話をしてくださいました。

## 5. 児童生徒の感想紹介

- 自分が知らない出産の前にやることや、飼育員の一日などを知ることができました。  
(南吉成中 1年生)
- 動物園飼育員の仕事をしているなかで、楽しいことや悲しいこと、大変なことがあると改めて思いました。  
(将監中央小 5年生)

## 「WEB（ウェブ）デザイナーの仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 漆畑 聖香 先生, 鈴木 拓真 先生  
 ■ 講師補助：〔氏名〕 姉川 理子 先生, 後藤 悠貴 先生, 木戸 里美 先生,  
 森 遙香 先生, 星川 優香 先生, 原田 遙 先生  
 〔所属〕 株式会社メンバーズ

■ 参加人数 16 人

講座担当者 丹治 重廣

若い方々が活躍する「メンバーズ」から8名の先生方に来ていただき、限られた時間の中で、WEBデザインの基礎を丁寧に教えていただきました。その上、WEBデザインの体験もできるようにと、分刻みの計画を立ててきていただき、参加者は学びながらWEBデザインの仕事そのものと、そこに携わる先生方の思いをしっかりと学ぶことができました。

### 1. 「デザインの基礎知識（三大要素，四大原則，ワイヤーフレームとは）」

三大要素である「イロ」（感じさせる効果等）「モジ」（ニュアンスを加える手段等）「カタチ」（連想できるイメージ等）について具体例を交えながら説明を受け、更に実際のデザインには、「線」「質感」「空間」「奥行き」が加わることを知りました。次に、これを守るとデザインが綺麗に整いやすいという四大原則（近接・整列・強弱・反復）についても具体的に説明を受け、基礎知識を学ぶことができました。身近な商品などを使った説明がとても分かりやすかったです。デザイナーとしての心構えについても併せて教えていただきました。最後は、ワークショップのテーマを「WEBを素敵にしてみよう」とし、実際のWEBページを題材に、線と図で構成されるワイヤーフレームについて学びました。



### 2. 「ワークショップ（ワイヤーフレーム作成体験）」

前半に学んだデザインの基礎知識を使い、WEBページの配置の設計図づくりに取り組みました。グループでページを3つのパーツに分けて分担しました。各自が担当した部分について、課題点を見つけ改善案を考えた上で、ワイヤーフレームを作っていくという作業でした。最初はみんな悩んでいましたが、前半で教えていただいた基礎を思い出しながら、先生方のアドバイスもいただき、途中からはスピードアップして自分の考えをどんどん用紙に書き込んでいきました。



最後に、分担した部分についての考えを列ごとに合わせてホワイトボードに一つのページ案としてまとめました。それぞれのワイヤーフレーム案について良かったところを取り上げて講評をいただきました。



### 3. 質疑応答から

- Q. 制作に使われるプログラミング言語は何ですか。  
 A. 基本的にはHTMLで、それに加えて、CSSやJavaScriptの3つになると思います。
- Q. WEBデザイナーで一番難しいことは何ですか。  
 A. お客様の要望を形にすること、ユーザーの方々が使いやすいようにするためにどうしたら良いかを考えることです。正解がないので、模索しながら仕事をしています。

### 4. まとめ

「何になりたいかもとても大切ですが、何をして生きたいかを大切にしてほしいです。」と、社会人の先輩としてのメッセージをいただきました。

事前アンケートに各自が書いた質問事項については、先生方が皆さんで分担して答えを考えてくださった上で、それを付箋紙に書いて丁寧に貼り付けてくださいました。最後まで、綿密に計画された流れの中で、チームワークよく、とても丁寧に講座を進めていただきました。これまでの準備も含め、心から感謝したいと思います。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 自分で仕事の一部を体験してこれを一からしている大人はすごいなあと思いました。WEBデザイナーの仕事がよくわかりました。（富沢小 6年生）
- これまで、自分で調べたりして、ある程度の知識がありましたが、新たな知識を得ることができたので、非常に有意義な時間になりました。（長町中 2年生）

## 「歯科医師の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 西原 大輔 先生, 平田 政嗣 先生  
〔所属〕 一般社団法人 仙台歯科医師会

■ 参加人数 9 人

講座担当者 大場 浩太郎

仙台で歯科医院を開業されている、西原先生、平田先生を講師にお迎えしました。歯科医師に関する体験活動や、先生の話聞くことを通して、将来への夢や希望を持たせるとともに、職業や働くことへの理解を深めることのできる講座でした。

### 1. 【体験実習】歯科医師の仕事を体験しよう

#### ① 歯の治療をしてみよう！

歯科医師の仕事内容について、説明を受けた後、実際に虫歯の治療体験を行いました。歯の模型に『レジン』を詰め、硬化するライトを照射し、治療する体験を行いました。

#### ② 型を取って模型を作ろう！

顎の模型の型を取り、石膏で模型を作る体験をしました。専用の機械で練った型取りを、固まってしまいう前に、素早く顎の模型に被せます。そこへ石膏を流し込むと模型の完成です。



### 2. 【講話】歯科医師になるために

歯科医師になるためには、専門の大学で学ばなくてはなりません。歯科医師になるための大学の数は少なく、そこで6年間勉強をする必要があります。歯科医師になることがゴールではなく、どのような歯科医師を目指すのかという夢や、働くことの意味を考えることが大切だと教えていただきました。



### 3. 質疑応答から

Q. なぜ歯科医師になろうと思ったのですか。

A. 子どもの頃、歯医者に通い、そのときの先生の姿を見て、患者さんを笑顔にする仕事がしたいと思ったからです。

Q. 歯科医師をしていて、うれしいと思った時はどんな時ですか。

A. 患者さんから「ありがとう」と言ってもらえることです。患者さんに我慢をさせているにもかかわらず、感謝されることがとてもうれしいです。

### 4. まとめ

先生も子どもの頃は将来の仕事は何にするか、悩むことがあったそうです。自分の得意なことや好きなことを考え、自分の進みたい道に向かって努力することが大切だと教えていただきました。



### 5. 児童生徒の感想紹介

○ 歯科医師の仕事は大変だと思っていたけれど、「やりがい」があると聞いて、歯科医師の道もいいなと思いました。  
(北仙台小 6年生)

○ とても貴重な体験ができて良かったです。歯科医師への興味がもっと深まりました。  
(蒲町中 2年生)

## 「音楽演奏家の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 山本 純 先生

〔所属〕 チェロ奏者

■ 参加人数 22 人

講座担当者 伊世 貴志

元仙台フィルハーモニー管弦楽団員でチェロ奏者である山本純先生をお迎えし、「音楽演奏家」の仕事について学びました。導入として、チェロの素敵な演奏を聞かせていただいた後、音楽の仕事は多岐に渡ることや、夢をつかむ方法などについて熱心に教えていただきました。

### 1. 音楽に関わる仕事

音楽の仕事には、「演奏する」「作る」「教える」「利用する」の4つがあることを教えていただきました。「演奏する」仕事の演奏家や「教える」仕事の教師、「作る」仕事の作曲家などは思い付きやすい仕事ですが、「利用する」仕事として、「何かと音楽を組み合わせる」ことが仕事になることを学びました。例えば、音楽と図工を組み合わせれば「楽器を作る仕事」になります。また、自分で新しい仕事を創造してもよく、音楽の仕事は多岐に渡ること学びました。



### 2. 夢をつかむには

冒頭で、山本先生は「失敗をポジティブに」とおっしゃっていました。失敗をチャンスと捉えることが大切とのことでした。山本先生自身、チェロを選んだ背景には様々なことがありましたが、これをチャンスと捉えて大学で4年間練習に励み、その後仙台フィルに入団することができたという経歴があります。周りにはチャンスがある。チャンスは降ってきている。目を凝らしてチャンスを探すために動く。この積み重ねによって、きっといいことに巡り会えるものだという事を教えていただきました。



### 3. 質疑応答から

Q. どれくらいで演奏家になれますか。

A. 自分自身、大学の4年間チェロを弾いてプロの楽団に入団できたので、4年あればなれるかも？ただ、ソリストとして働くにはかなり有名になる必要があります。集団の中で働くにはオーケストラのオーディションに受かる必要があります。大切なのはチャンスをつかむことです。

Q. いっぱい練習すれば上手になれますか。

A. 間違ったくせを身に付けてはいけません。正しい練習が必要です。例えば基礎的なソルフェージュなどの正しい練習の繰り返しがとても大切です。

### 4. まとめ

音楽に関わる仕事は、演奏家だけではなく、様々なものと組み合わせれば無限の可能性があります。周りにあふれているチャンスを探して行動する努力をし、夢をつかむことがとても大切です。

### 5. 児童生徒の感想紹介

○ チャンスに対して控えめに接するのではなく、積極的に挑んでいくのが大切だと思います。 (八木山小 5年生)

○ 音楽にも色々な仕事があることを知りました。「音楽は、色々な世界につながっている」という言葉が一番心に響きました。 (台原中 1年生)

## 「建築家の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 江田 紳輔 先生, 犬飼 崇典 先生, 小野寺 謙 先生,  
阿部 佳穂 先生

〔所属〕 株式会社 関・空間設計

■ 参加人数 35 人

講座担当者 及川 紘子

(株) 関・空間設計は、石巻市にある道の駅「上品の郷」や、昨年度完成した仙台市立四郎丸小学校など、私たちの身近にある有名な建物の設計・建築をしている会社です。今回は4名の講師の方から、建築の楽しさや難しさ、そして、仕事の上で大切なことについてお話しいただきました。

### 1. 建築家の仕事

はじめに、洞窟のようなレストランや、発電所とレクリエーション施設が併設されている建築物など、子どもたちの概念を覆すようなユニークな建築物をクイズ形式で紹介してもらいました。様々な建築物を知ることによって、建築の面白さに改めて気付くことができました。その後、講師の先生方が実際に携わった建築物を例にしながら、設計から完成までの流れを教わりました。設計段階の予想図が実際にできあがった建築物とそっくりで、とても細かいところまで考えられていることに、受講した子どもたちも驚いていました。



### 2. 体験実習

昔は定規やメジャーはなく、体の大きさを使って長さを測っていたということを教わりました。そこで、グループごとに自分たちの体の大きさを使って様々な物の長さを測ってみました。まず、3人組で自分たちの手のひらの大きさや腕を伸ばした大きさなどを測りました。次にその大きさを活用し、机の長さやバドミントンコートなどの長さを測りました。最初は恥ずかしそうに活動していましたが、しだいに声を掛け合いながら工夫して測る姿が見られました。体験を通して、建築家に必要な、大きさの感覚を実感することができました。



### 3. 質疑応答から

Q. 建築家として大切なことは何ですか。

A. 人の話をよく聞くことです。好き勝手に建ててよいわけではありません。よりよい建築物を作るために、しっかりと耳を傾け、話を聞くようにしています。

Q. 大変なこと、やりがいは何ですか。

A. 大変なことはお客さんの思いを形にすることです。でも「使いやすかった」と言ってもらったり、作った建物が人気になったりすると、やりがいを感じます。

### 4. まとめ

自分が作った建物を使った人がそこでよい仕事をする、そんなサイクルを作っていきたいと考えています。建築家は、依頼してくれた人の思いを形にし、その建物で人々がよい活動をする環境を作ることによって、世界を変えることができる仕事だと思っています。建物を建てて終わりではありません。人の思いと風土や歴史などを大切にしながら、未来にバトンをつないでいきたいと考えています。

### 5. 児童生徒の感想紹介

○ 建築家は、人を幸せにする、人との関わりが深い仕事だと感じました。建築家として大事な「人の話を聞くこと」を学校でもちゃんとしていきたいです。

(大野田小 6年生)

○ 建築家はとても大変だけれどやりがいのある仕事だと分かり、建築にもっと興味がわいてきました。建築家になったらよい家を建てたいです。

(鶴巻小 5年生)

## 「弁護士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 桑原 和也 先生, 千葉 俊太郎 先生  
〔所属〕 弁護士法人A. Iステップ

■ 参加人数 30 人

講座担当者 針生 真由美

大学生になった当時、マスコミ（報道関係）の仕事を目指していたという桑原先生をお迎えし、「何故、弁護士を目指そうと思ったのか」「1日のスケジュール」「実演を交えた裁判所での証人尋問のやり取り」等、様々な角度から弁護士の仕事についてお話をいただきました。

### 1. 弁護士の仕事～弁護士への道～

弁護士になるには、大学卒業後2つの選択肢があり、一つは法科大学院へ進み卒業して司法試験の受験資格を得ること、もう一つは予備試験に合格し司法試験の資格を得ることとのことでした。司法試験は毎年5月の中旬に行われ、司法修習という研修を受講して弁護士になれることを学びました。試験を受験出来る回数は最高5回までであることを聞いた時、子どもたちはかなり厳しい受験であることを痛感した様子でした。しかし、お二人の先生による証人尋問のやり取りでは質問も飛び交い、和やかな表情に変わりました。また、弁護士会には、サッカー一部等の部活もあり、休日に参加して有意義な時間を過ごしているというお話もされていました。



### 2. 弁護士の仕事～仕事の内容（実践含む）～

実際に一日の流れをお話いただきました。法律相談から始まり、証人尋問で裁判所へ。その後、委員会活動（弁護士の集まりの弁護士会）があり、様々な委員会に所属し、活動しているお話をうかがいました。その後の示談交渉では、子どもたち同士で示談交渉のやり取りを行い、自分が弁護士になった気持ちで学ぶことが出来ました。その際に、弁護士になるには、「文章が特に大切である」と桑原先生が仰っていました。裁判では、事前に主張文を提出しておくため、文章力が解決策として最も重要であることもお話しされていました。



### 3. 質疑応答から

- Q. どうして、弁護士を目指そうと思ったのか教えてください。
- A. 法律を勉強したくなかったからです。政治＝法律という部分から、弁護士になりたいと思ったことがきっかけになり、猛勉強しました。
- Q. 弁護士になって良かったこと、嬉しかったことを教えてください。
- A. 悩んでる人が少しでも気持ちが楽になったり、環境が良くなった所を見た瞬間です。「助かりました」と感謝の気持ちを伝えてもらった時は一番やっていて良かったです。

### 4. まとめ

弁護士バッジの意味は、ひまわり→正義、天秤→公正と平等という意味があることを教えていただきました。やってもいないことで処罰を受けることは絶対に許されないことであり、おかしい証言があればどんどん聞いて真実を追及していくことは必須です。そのためにも作文や文章を書くことが大事ということをお話いただきました。また、日々の実践を積むことで経験値も増すため、努力や経験はたくさんあって損はないということも教えていただきました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 昨年も参加させていただきましたが、やはり楽学プロジェクトは自分の為になります。今回は弁護士の仕事でしたが、分かりやすく知ることができました。弁護士はすごく勇気がいる仕事だと思います。  
(南吉成小 6年生)
- 弁護士になるための大変さや仕事の大変さも学べたと同時に、努力や人を守ろうとする心がけも学ぶことができました。感謝で胸がいっぱいになり、弁護士はとてもかっこいいと思いました。コツを使って学ぼうと思います。  
(第二中 3年生)

## 「消防士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 須田 拓也 先生, 北舘 真希子 先生, 助川 広太 先生  
〔所属〕 仙台市消防局 宮城野消防署

■ 参加人数 9 人

講座担当者 村田 智朗

「消防士の仕事」では、仙台市宮城野消防署から須田先生、北舘先生、助川先生を講師に迎え、消防士のやりがい、仕事に対する思いを体験活動を交えながら分かりやすく教えていただきました。

### 1. 消防の仕事

消防の任務は「市民の生命、身体、財産を守る」ことです。そのために多種多様な災害に対応する「警防隊」、救命の最前線で活躍する「救急隊」、災害や交通事故などあらゆる災害で救助活動を行う「救助隊」、現場で指示をする司令塔の「指揮隊」火災を起こさないように検査や指導したり、防火防災の指導や意識の普及啓発をしたりする「予防業務」とそれぞれに役割があることが分かりました。また、消防士になるための消防学校での生活や、女性でも大いに活躍できる仕事であることも教えていただきました。



### 2. 体験

仙台で一番高く、ウルトラマンと同じ高さの40mのはしご車を見せてもらったり、救急車の中に乗せてもらい機材の説明を聞いたりしました。また、実際に使っている消防服を着たり、合計30kgもある空気ボンベを背負う体験をしたりしました。ホースなどの機材にも実際に触れ、消防士の気分を味わいました。



### 3. 質疑応答から

- Q. どうして、消防士を目指そうと思ったのか教えてください。  
A. ウルトラマンに憧れていたからです。ウルトラマンは「助けてー」と言われたらすぐに助けに行きます。消防士も同じです。

### 4. まとめ

『消防士はみんなが逃げていく火の中に飛び込んだり、雪山に行ったり、冷たい水の中に入ったり、つらい所でも助けを求めている人がいれば一番最初に行きます。災害があれば家族を置いてでも行かなければなりません。全国・世界にも、どんな状況でも行かなければなりません。そんな状況でも「ありがとう。助かりました。」と言われることがやりがいです。みんなも好きなことがいろいろあると思いますが、何を目的に働くのでしょうか？私は人を助けることが好きです。世界中の人たちの笑顔を守ることが私の働く目的です。』と須田先生から働くことの意義についても学びました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- ボンベなどとても重かったけど、背負えて良い経験になりました。消防士の仕事のことが分かり、講座に応募してすごく良かったです。(東四郎丸小 6年生)
- 消防士は人を助けること以外にもたくさんの仕事をしていることが分かりました。将来、消防士になって「世界の笑顔を守れる」人になりたいです。(岩切小 6年生)

## 「ゲームクリエイターの仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 末広 幸子 先生, 本田 琢人 先生  
〔所属〕 株式会社シフォン

■ 参加人数 36 人

講座担当者 寶森 公喜

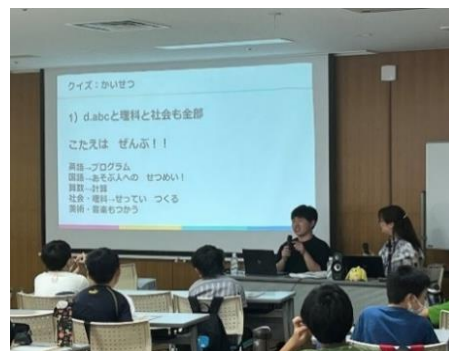
「ゲームクリエイターの仕事」では、最前線でゲームの企画・制作を行っている株式会社シフォン副社長の末広幸子先生と、同社プログラマーの本田琢人先生を講師としてお迎えしました。分かりやすい資料とともに、仕事の魅力をたっぷりとお話いただきました。

### 1. 講師お二人による「ゲームクリエイター」までの道のり

末広先生は子どもの頃、工作などモノをつくるのが好きな少女でした。ゲームセンターに夢中で通う中高生時代を過ごし、卒業後はパソコンとインターネットを使った仕事を経て、今の会社でゲームの企画に携わっているとのことでした。本田先生は、勉強と無縁の元気な少年時代を過ごしていたそうです。その後、高校で進路に悩むこととなります。ゲーム会社のプログラマーを目指し、専門学校のゲームクリエイター科へ入学を希望しますが父が反対。説得するために本気になって勉強し、自ら作ったプログラミングを父に見せ、父の説得に成功しました。さらに専門学校でプログラミングを学び、卒業後、プログラマーとして今の会社に勤務しています。

### 2. はたらくとは？

「遊びの未来を作りたい」という思いをもって働いているという話がありました。自分が企画してつくったゲームを通して、ゲームをやった人たちから「楽しい！」と言ってもらえることが何よりもうれしく、それが働くことの魅力だと語っていただきました。また、ゲームクリエイターに必要な勉強は？というクイズが出され、正解は学校で勉強する全ての勉強が繋がっていて全て必要であるということを実体験を交えて教えてくださいました。



### 3. 質疑応答から

- Q. ゲームを1つ作るのにどれくらいの時間がかかりますか。  
A. ゲームにもよりますが、1つのゲームを作るには3～4年くらいかかります。
- Q. ゲームを作るときに、どのようなことに気を付けていますか。  
A. 例えばロールプレイングゲームでの武器の値段を決めるとき、10回ほど戦って得たお金で買える値段にするか、それとも100回戦って買える武器にするかなど、利用者が楽しくレベルアップした感じで遊べるよう計算してゲームを企画しています。

### 4. まとめ

将来の自分のために、努力すること、勉強すること、気持ちの強さ、これらが大切だというメッセージをいただきました。



### 5. 児童生徒の感想紹介

- こんな機会めったにないと思うので、ゲームの仕事についていろいろなことを聞けてとてもよかったです。  
(古城小 5年生)
- この職業に就くには、様々な科目の勉強が必要だと学びました。遊ぶ人や同僚にも説明ができるような力や、チームワークよく、他の分野の仕事も理解し、協力することも必要なのかなと思いました。  
(長命ヶ丘中 1年生)



## 「学校の先生の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 伏見 滋 先生, 遠藤 勝彦 先生, 三浦 絵衣実 先生  
〔所属〕 東四郎丸小学校

■ 参加人数 37 人

講座担当者 早坂 孝一

伏見滋先生は3年連続、本講座の講師を担当してくださいました。講座前の打合せで講師の先生方は、コロナ禍明けの今回は中学生の参加も復活し、参加者数も増えるという事で、非常にモチベーションアップされておられました。コロナ禍での開催と違い「対話」や「交流」が可能となったことで、期待感に満ちていて、また楽しく、「笑いの溢れること」「優しい心を育むこと」に心がけて取り組みたいと意気込んでおられました。そして迎えた当日は、参加した子どもたちを6～7名のグループに分け、過去同様、朗らかな伏見先生のお人柄と軽妙なテンポで、子どもたちの緊張をほぐすかのごとく、明るい雰囲気の中、講座がスタートしました。

### 1. 講座の内容①

例年通り、学校と同じように、時間割表を掲示して約15分間隔で様々なお話をさせていただきました。「算数、国語の時間」では、今年も実際のテストと答案用紙を見ながら採点をする「赤ペン先生」の体験がありました。「ただ〇×をつけるなら機械やAIでもできます。正しいか正しくないかだけではなく、子どもたちがもっと頑張りたいくなるようなコメントもつけてあげてください。」という、伏見先生のアドバイスがありました。はじめは戸惑いながらも、子どもたちは楽しみながら採点体験をしていました。



### 2. 講座の内容②

「総合的な学習の時間」と題して、遠藤勝彦先生から学校の先生になるには、聞き上手になることが大切だというお話をいただきました。また、先生は子どもたちと接することだけでなく、地域の人や保護者、PTAとの繋がりが深く、みんなを見守る優しい大人がいっぱい居るということを、子どもたちに伝えていました。三浦絵衣実先生からは、先生の仕事は、産休・育休が取得でき、女性として母親として、それはとても重要だということ、参加した子どもたちに訴えていました。「子どもを育てることはとても尊いこと」という子どもたちへのメッセージは、とても印象深く、是非子どもたちに伝わって欲しいと強く感じました。



### 3. まとめ

全体を通して、今年も優しさと笑顔に満ち溢れたすばらしい講座となりました。「昼の放送」と題した時間に行った「故郷・仙台」にちなんだクイズ大会で、その盛り上がりは最高潮に達しました。受講した子どもたちだけでなく、山口委員長はじめ担当した楽学プロジェクトスタッフの大人たちまでもが楽しい雰囲気になりました。みんなが伏見先生独特のスピーチ「伏見節」に引き込まれていました。この講座は生涯学習という視点や本来の目的を見事に射貫いた、楽学プロジェクトの「名物講座」の一つであると、また強く感じました。

### 4. 児童生徒の感想紹介

- 先生の仕事について知れて良かったです。採点・丸付け体験がとても楽しかったです。  
(北六番丁小 5年生)
- 今回参加し、学校の先生になりたいという思いが強くなりました。  
(鶴谷小 5年生)
- 優しい先生やスタッフ、ジュニアリーダーの皆さんのおかげで、先生の仕事を知ることができました。  
(田子中 1年生)
- あらためて夢を持つのは良いことだと思いました。また、「学校の先生」の仕事は、人を育てる仕事だと思いました。  
(柳生中 1年生)

## 「農家の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 二木 洸行 先生, 平松 希望 先生  
〔所属〕 一般社団法人 ReRoots (リルーツ) ・農家

■ 参加人数 17 人

講座担当者 青沼 伸吾

若林区沿岸部で「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」をテーマに、学生主体のボランティア活動を行っている一般社団法人ReRootsの代表・二木洸行さん、そしてReRootsの出身で、現在は荒浜地区で農家を営んでいる平松希望さんをお招きし、農家の仕事における誇りや苦勞、展望についてお話いただきました。

### 1. 野菜ものしりになろう！

「大根は根っこですか？味は辛いですか？」、「ニンジンの表面は皮ですか？それとも？」など、身近な野菜を実際に示しながら、クイズ形式で講座がスタートしました。普段、目にし、口にする野菜のことを、私たちは意外と知らないものです。クイズを通して野菜の面白さ、奥深さを知ることができました。

ちなみに、ご飯茶碗1杯に、約何粒のお米が入っているか、皆さんはわかりますか？



### 2. 東日本大震災からの土づくり～復興の歩みと農家の誇り～

東日本大震災によって、若林区沿岸部は大きな被害を受けました。講座では震災直後から半年後までの畑の変化を写真で見ながら、当時のがれき撤去の様子や、土づくりの大切さ、そして収穫までの過程について学びました。

さて、農家の皆さんはなぜ野菜を育てるのでしょうか。それは「野菜を待っている人がいるから」です。野菜を作ることは命を作ること。そして、それを食べる人々の命を支えるということ。そのことに喜びを感じながら、農家の方々は日々、目の前の畑、野菜と向き合い続けています。



### 3. 質疑応答から

- Q. 仕事をしていて大変だと思うことはありますか。  
A. 仕事をしていてトラブルが生じることはありますが、大変だということはありません。体調が悪いなど、様々な理由で仕事ができないことは大変だと感じます。
- Q. 先生に将来の夢はありますか。  
A. 今よりもおいしい野菜を作りたいのはもちろん、農業を通して田舎の大事な文化を将来に受け継ぐことや、今いる人と新しい人が協力して農業を続けることを、実現していきたいです。

### 4. まとめ

農家は高齢化が進んでおり、現在定年を過ぎた年齢の方々が主に農業を支えています。二木先生はその現状をふまえて、「農家を応援したい！」という思い、そして農業に必要な力である「優しさ・努力・素直・観察力・想像力」を持つ「未来の農業人」を育てたいと考えています。「誰かのために」という価値を見出すことが、仕事をする上での原動力です。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 土づくりや消費者への思い、農家になるための心得など、いろいろなことが分かりました。将来、農家になったらその気持ちを大切にしたいです。（榴岡小 6年生）
- 私が想像していたよりも大変な仕事内容でした。また、「待っている人のために野菜を作る」という言葉から、農業についてさらに興味が湧きました。（第一中 2年生）

## 「保育士の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 瀬川 奈都乃 先生, 國分 美沙 先生  
〔所属〕 仙台市こども若者局

■ 参加人数 22 人

講座担当者 鎌倉 洋志

保育現場でよく使う手遊び歌で、楽しくスタートしました。はじめに、スライドを使って「保育所と幼稚園の違い」や「保育士の仕事」などの説明がありました。参加した子どもたちは一生懸命にメモを取りながら聞いていました。その後、赤ちゃん人形を使って保育活動を演習し、最後に講師からのメッセージをいただいて会を閉じました。

### 1. 保育士の1日

「保育士の1日」の紹介がありました。自然体験や遊びの中で、人生で役立つ「生きる力の基礎」が育つように考えて、活動を決めているそうです。また、保育士になるために必要なことを、具体的にお話ししてくださり、子どもたちは目を輝かせながら、一生懸命に聞いていました。



### 2. 保育士体験

赤ちゃん人形を使っての保育体験を行いました。保育現場で実際に使用しているエプロンを着て、哺乳瓶での授乳やおむつ交換、おんぶ体験などをしました。赤ちゃん人形は3kgあり「こんなに重い?」「首、気を付けるんだよ。」などと声を掛け合いながら、協力して活動していました。



### 3. 質疑応答から

- Q. 小さい子どもが喧嘩した時には、どのように対応していますか。
- A. まず、理由を聞くようにしています。そして、その時の気持ちを受け止めた上で、どうしたら良かったかを一緒に考えるようにしています。
- Q. 保育所で使うおもちゃは、どんな物が多いですか。
- A. おもちゃはいろいろな物を使っています。大きさも年齢によって様々です。発達段階に応じた遊びができるように工夫しています。

### 4. まとめ

保育士の仕事について、子どもの命を預かる責任の大きな仕事であるが、成長を間近でみることができるとてもやりがいのある仕事だというお話がありました。最後に「誰かの役に立つことが幸せにつながること」、「社会はみんなが助け合い、支え合いながら生きていること」など、働くことの意義を伝えてくださいました。



### 5. 児童生徒の感想紹介

- 保育士には、子どもの命を守るという大きな責任があるけど、子どもと過ごす幸せな時間であることが伝わってきました。(岡田小 5年生)
- 実際に現場で働いている方のお話を聞いたり、赤ちゃんと同じくらいの大きさの人形を使用した抱っこ等の体験は、とても貴重だと思いました。(南光台中 3年生)

## 「薬剤師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 栢窪 克行 先生

〔所属〕 公益財団法人 仙台市医療センター 仙台オープン病院

■ 参加人数 36 人

講座担当者 永島 功三

「薬剤師の仕事」では、仙台オープン病院の薬剤部長、栢窪克行先生を講師としてお迎えし、薬剤師として必要な資質、仕事の内容や勤務日の具体的な業務などを説明していただきました。また、薬品の扱い方・注意点を、実際に医薬品や医療器具を使った体験活動を通して教えていただきました。

### 1. 薬剤師の仕事 ～薬剤師とは？～

年々増加傾向にあり、働く場所も広がっている薬剤師は、どのような仕事をするのか教えていただきました。実際に病院で勤務する薬剤師の様子や、機械を使って薬を調剤する場面の動画を、子どもたちは熱心に見ていました。また、薬剤師になるための学校での勉強や進路、大学での学習期間や実習についても具体的に示していただき、全員が真剣にメモを取っていました。



### 2. 薬剤師の仕事 ～医薬品の扱い方～

体験活動では、実際に医薬品を用いて、扱い方や注意点を教えていただきました。最初、子どもたちは木べらを使って軟膏を入れ物に取り分け、表面をきれいに整えることに挑戦しました。入れ物には何の薬が入っているのか、きちんとラベルに薬品名を書いて貼り、完成しました。



次に、輸液バック（ダブルバック）の準備をしました。力が必要な作業なので、子どもたちはそれぞれ工夫し、体重をかけたり2人で協力したりして輸液バックをつぶし輸液を開通させました。



その後、注射器と注射針を使って生理食塩液を注入しました。先生が「薬剤師には集中力が大切」とおっしゃるように、全員が先生の指示をよく聞いて安全に取り組み、輸液の準備を完了することができました。

### 3. まとめ

「薬剤師に必要なこと、薬剤師に向いている人」というお話をいただきました。必要なことは「集中力、健康に関心があること」が基本です。また、学校の勉強では「理科系の科目、特に化学」が好きということも大切です。しかし、今日の薬剤師は様々な仕事の場があります。病院や薬局だけでなく、ドラッグストアでの勤務もあります。薬剤師は、医師と相談したり、指示を的確に聞いたりすることが基本ですが、患者さんやお客さんと話したり、相談にのったりする「接客業」としての側面もあります。たくさんの人と対話しながら仕事を進めていくので、「コミュニケーション能力」も薬剤師にとってはとても大切な力です。「これからの学校生活で、勉強だけでなく様々なことに挑戦し、ぜひ薬剤師になる夢をかなえてください。」と、メッセージをいただきました。

### 4. 児童生徒の感想紹介

- 薬剤師になるために、責任感や集中力を身に付けていきたいと思いました。  
(鶴が丘小 5年生)
- 自宅では「お仕事図鑑」を読んでいます。薬剤師の仕事について、本に書かれている内容以外のことについても、知ることができました。  
(宮城野中 1年生)

## 「動画クリエイターの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 益田 健二郎 先生

〔所属〕 MASS事務所

■ 参加人数 37 人

講座担当者 丹治 重廣

テレビ局で映像制作に関わっていた益田先生から、先生が独立されて動画クリエイターのお仕事を始められた経緯を含め、「なぜ今、動画クリエイターなのか」ということについて、体験活動を交えながら、わかりやすく伝えていただきました。参加者は、それぞれ映像制作に関する機材に触れながら、制作現場の実際の一端を学ぶことができました。

### 1. 「動画クリエイターの仕事」とは？座学&体験

動画クリエイターとして実際に制作した動画を2本見せてもらいました。空中からの映像の迫力や、音と映像のコラボレーションの効果を実感できました。動画クリエイターの仕事の流れについて、テレビ局との違いや依頼者であるお客様とのやり取り等についてお話をしていただきました。

その後、「ドローン撮影」「4Kカメラ撮影」の二手に分かれて参加者全員が、体験させてもらいました。機材は、実際に益田先生が使っている機材をお借りしてクリエイターを実体験することができました。一人あたりの時間は1分に満たないものでしたが、大変貴重な時間でした。



### 2. 動画編集の実際と動画クリエイターとしての思い

前半に、参加者が撮った映像データをPCに取り込んで、編集作業の実際を目の前で実演してもらいました。子どもたちは、自分が操作して撮った映像が様々な姿に変化していく様子を、とてもわくわくしながら観ていました。以前だとテレビ局でしかできなかった編集作業が、個人が所有するノートPCで変幻自在にできてしまうことを、実感できたようです。

その後、個人の動画クリエイターが急増している背景について、具体的にお話をしていただきました。4K映像が、今は個人の機材で制作できること等を知り、自分でも夢として持つことが可能であることに驚いていました。



### 3. 質疑応答から

Q. なぜ動画クリエイターが増えているのですか。

A. 映像制作に必要な機材の価格が大幅に下がってきたので、個人での経営が可能になって増えてきたからです。ホームページだけでなく、YouTubeや屋外ディスプレイ広告等、映像を観ることができる端末が増えています。今後、減ることはないと思います。

Q. 動画クリエイター自身が、動画に出ることはないのですか。

A. あります。しかし、私は、出たくない方です。

Q. 編集には、どんなPCを使っているのですか。機材は全部でいくらぐらいですか。

A. MacBookProを使っています。会社で使っている機材は全部で200万円ぐらいです。

### 4. まとめ

「これまでは、テレビ局等に務めていて経験をしてきた人間がなっていますが、今後、皆さんの時代は、自分で練習したり、専門的な学校で学ぶことは必要でしょうが、やろうと思えば、誰にでもできる素晴らしい世界になっていくと思います。動画クリエイターとしてのやりがいは、やらされて作るのではなく、いろいろな映像制作に挑戦できること、そして、依頼に応えることができ、直接お客様に喜んでもらえることです。」というまとめのお話をさせていただきました。子どもたちが、自分にも挑戦できる世界であることを実感できたと思います。

### 5. 児童生徒の感想紹介

○ 動画をつくることの大変さや楽しさが分かりました。ドローンや4Kカメラを使うことができ、楽しかったです。(連坊小路小 5年生)

○ 仕事の内容、進め方、やりがい等たくさんの興味深いお話を聞くことができ、カメラでの撮影、ドローンの操縦など、楽しい体験もできて良かったです。(柳生中 1年生)

**「ファッションデザイナーの仕事」活動紹介**

- 講師：〔氏名〕 飯岡 智 先生, 久道 優子 先生  
〔所属〕 宮城文化服装専門学校

■ 参加人数 17 人

講座担当者 後藤 亮甫

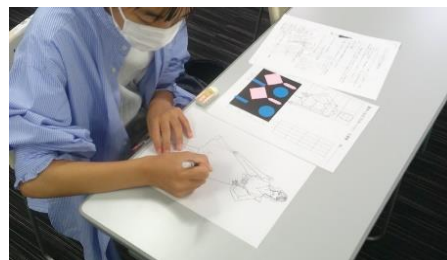
ファッションデザイナーの仕事の講座では、宮城文化服装専門学校の飯岡智先生と久道優子先生を講師としてお迎えし、ファッションデザイナーについての講話や実際にデザインを考える演習を行い、参加した生徒が楽しく学んでいました。

**1. ファッションデザイナーについて【講話】**

ファッションデザイナーとは、デザイナーの中で、服飾・ファッション分野のデザインを専門とする者をいい、デザイナーと言われる26種類くらいある中の1つであるというお話をいただきました。また、デザイナーになるためのお話もいただきました。デザイナーになるための資格等はありませんが、デザインの真似をすることはできないので、新しいアイデアを生み出すために、美術や陶芸といったファッションと関係のない分野にも興味を持つことが大切であることを学びました。

**2. デザインを考える【演習】**

自由にデザインを考えようということで、2色の丸や四角・楕円の形を組み合わせながら黒色の用紙の上にデザインを考えました。そして、実際に考えたデザインを洋服に入れていきながら、オリジナルの洋服のデザイン画を完成させる演習を行いました。デザインを考える時に、ただその形を使わず重ねるなどして工夫しながら作っていました。子どもたちは洋服のデザイン画の色塗りの手を止めることなく集中して取り組んでいました。

**3. 質疑応答から**

- Q. 人の心を引きつけるデザインの工夫はありますか。  
A. すべての人の心を引きつけるのは難しいです。よって、ターゲット（買って欲しい年齢層）に合わせてデザインを考えることが大切です。
- Q. 流行色はどのように生まれるのですか。  
A. 2年前には決まっています。国際流行色委員会が、世界の加盟国の意見を集めて、2年後の流行色を決定しています。

**4. まとめ**

デザイナーという職業は本当に好きでなければいけない職業であり、絵を描くことはもちろん、常に新しいものを考えていく（クリエイト）ことが求められます。ファッションデザインだけでなく、様々な芸術にも興味をもって自分の引き出しを増やしていき、色々なことに挑戦していくことが必要であると教えていただきました。

**5. 児童生徒の感想紹介**

- ファッションデザイナーの仕事や仕事に就くまでの道のりが具体的に知れたので良かったです。実際のデザイン画も見られてとても勉強になりました。（郡山中 3年生）
- デザイナーは、思っていたよりも大変な仕事で技術面や勉強の他にもアイデアやセンスが大切だということを学びました。（向陽台中 2年生）

## 「和菓子職人の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 熊谷 典博 先生  
〔所属〕 元祖仙台駄菓子本舗熊谷屋

■ 参加人数 18 人

講座担当者 藤澤 茂和

「和菓子職人の仕事」では、元禄時代から300年以上、伊達文化と伝統の味の良さを伝え続ける元祖仙台駄菓子本舗熊谷屋の熊谷典博先生を講師にお迎えし、伊達政宗の和菓子に対する趣向や和菓子の名前の由来などについて講話をしていただき、実演を交えながら和菓子の魅力や奥深さを教えていただきました。

### 1. 仙台駄菓子とは？

仙台駄菓子の種類や作り方、名前の由来について講話をいただきました。千利休に師事した伊達政宗は、おしゃれ好きで有名です。和菓子の形や名前にも個性的なものが多いのは伊達文化が庶民にまで浸透していることの表れであるとも言えます。

仙台駄菓子は、上質な仙台糯（ほしい）を用い、黒糖や水飴など身近に入手できる食材を利用してつくられました。



### 2. 伝統的な技術に挑戦！

子どもでもできる「ひまわり」「あさがお」「ほたる」の3種類の練りきりに挑戦しました。一つ一つ実演を見た後で作業に取り掛かりました。洗練された技術を食べるように見ている姿が印象的でした。初めはぎこちない手つきでしたが、講師の先生の丁寧な指導もあり、次第にコツをつかんだようでした。

後半は笑顔いっぱいの活動になりました。伝統的な技術に触れながら、伝え続けることの大切さや新たな創造をすることの魅力を感じる活動となりました。



### 3. 質疑応答から

- Q. 和菓子の名前の由来について、どんな風に名前が付けられたのか教えてください。
- A. 例えば、「ほたる」という名前の和菓子があって、ほたるそのものを作ったところで、誰も食べたいと思いませんよね。ほたるが小川で光っているイメージを和菓子で表現することで、目で見ても楽しいものになりますね。食べる人の笑顔を想像することが大切なのです。

### 4. まとめ

食べる人に、食べておいしい、目で見ても楽しいと思ってもらえるようにたくさんの工夫が施されていました。

「これから働くことについて、興味を持って調べたり、真剣に悩んだりすることが出てくることでしょう。できれば、好きなことや興味があることを見付け、生き生きと仕事についてほしいです。」と励ましの言葉をいただきました。

### 5. 児童生徒の感想紹介

- 自分で和菓子を作ってみて、受け継がれている技術や作るときの思いが分かりました。今日作った和菓子は家で大切に食べようと思います。 (五城中 2年生)
- 和菓子は普通の料理とは違い、細かい作業が多くてすごく難しかったです。先生が細かく丁寧に教えてくださり、きれいに作ることができました。 (将監中 2年生)

## 「仙台市ジュニアリーダー」活動紹介

■ 参加ジュニアリーダー（中学生・高校生）40人

担当者 村田 智朗・細貝 和子

ジュニアリーダー（JL）とは、仙台市教育委員会の支援を受け、各市民センターを拠点として活動している中学生・高校生の青少年ボランティアです。

現在市内には38のジュニアリーダーサークルがあり、300人以上（令和5年9月現在）が登録しています。子ども会等の地域団体から依頼を受け、地域行事の際に子どもたちが楽しめるゲームやレクリエーションを企画・運営するなどの活動を行っています。

### 1. 楽学プロジェクトでの活動内容

#### （1）参加者の誘導，受付・整列補助

会場入口付近で、参加者の誘導や受付を行いました。また、講座終了後、参加者が解散する際の整列や誘導補助をしました。



#### （2）各講座の補助

各講座のはじめに、参加者の緊張をほぐすため、手遊びやクイズなどのアイスブレイクをしました。講座中は、参加者の見守りや講師の補助、グループワークのお手伝いなどを行いました。



### 2. 参加したJLの感想

- アイスブレイクをして緊張していた小学生が笑顔になってくれてよかったです。また、受付や講座の中でもいろいろとお手伝いすることができ、嬉しかったです。
- うまくいかない部分もありましたが次の要請に生かせればいいなと思いました。手伝いだけでなく、講座の話もとても興味のあることで面白かったです。

### 3. スタッフ（講師）の感想

- ジュニアリーダーの皆さんの面倒見の良さにはただただ驚かされました。大人が面倒を見るよりも、歳の近いジュニアリーダーがいてくれた方が参加者も安心して過ごせたように思えます。



## 令和5年度 楽学プロジェクト委員名簿

	役職	氏名	所属
1	委員長	山口 哲男	楽学プロジェクト委員会
2	副委員長	遠藤 浩志	館小学校
3	副委員長	久保木 潤子	楽学プロジェクト委員会
4	副委員長	岡本 浩行	楽学プロジェクト委員会
5	副委員長	山口 裕子	楽学プロジェクト委員会
6	委員	丹治 重廣	楽学プロジェクト委員会
7	委員	加藤 真由美	楽学プロジェクト委員会
8	委員	近江 麻江	楽学プロジェクト委員会
9	委員	菅原 浩江	楽学プロジェクト委員会
10	委員	針生 真由美	楽学プロジェクト委員会
11	委員	阿部 英男	北六番丁小学校PTA
12	委員	笹平 雅文	榴岡小学校PTA
13	委員	雪田 めぐみ	沖野小学校PTA
14	委員	佐藤 真奈	長町中学校PTA
15	委員	早坂 孝一	将監中学校PTA
16	委員	勝又 真吾	上杉山通小学校
17	委員	奥山 祥彦	古城小学校
18	委員	加藤 徳明	岩切中学校
19	委員	伊世 貴志	錦ヶ丘小学校
20	委員	鈴木 峻	木町通小学校
21	委員	村田 智朗	生涯学習支援センター
22	委員	三浦 健輔	青葉区中央市民センター
23	委員	庄司 千穂	宮城野区中央市民センター
24	委員	青沼 伸吾	若林区中央市民センター
25	委員	庄司 祐太	太白区中央市民センター
26	委員	河野 貴之	泉区中央市民センター
27	委員	浅野 佑一	市民図書館
28	委員	門脇 駿	仙台市科学館
29	委員	及川 志保子	宮城野区中央市民センター(地区館)
30	委員	田村 里恵子	宮城野区中央市民センター(地区館)
31	事務局	千葉 靖彦	学びの連携推進室
32	事務局	淀縄 ゆかり	学びの連携推進室
33	事務局	田村 修一	生涯学習課
34	事務局	加藤 良樹	生涯学習課
35	事務局	古谷 寛子	生涯学習課
36	事務局	間宮 智也	生涯学習課
37	事務局	佐々木 貴幸	生涯学習課
38	事務局	黒田 涼子	生涯学習課



今年もありがとうございました。

**【発行】 楽学プロジェクト委員会**  
(事務局) 仙台市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課  
〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目5番12号  
仙台市役所上杉分庁舎 10階  
TEL 022-214-8887